

336

版年百六千二

特254

232

昭和十五年運勢讀本

附 世界大戰と日本の國運

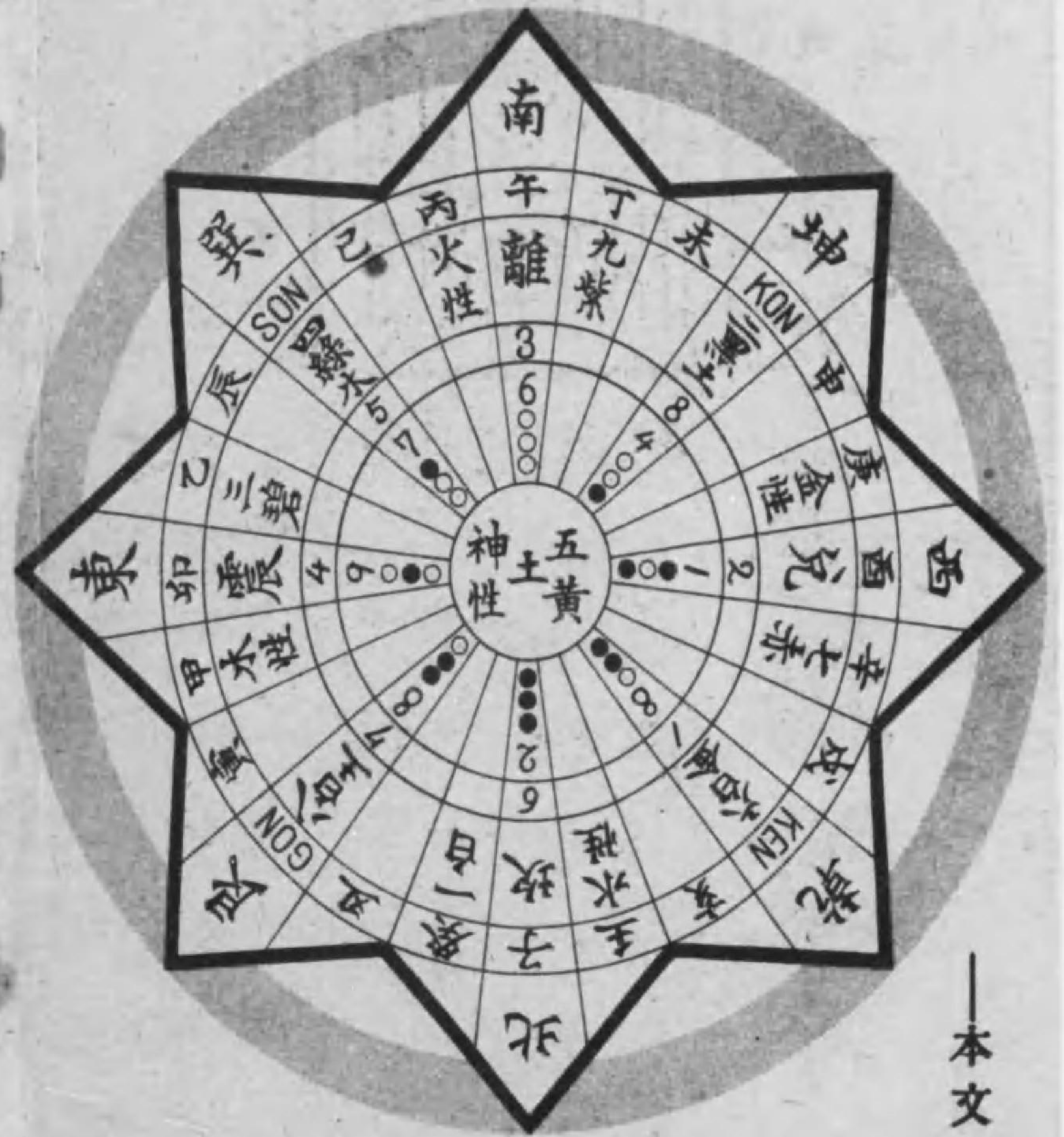
命學研講所著

35 SEN



始





—本文御参照—

版所講研學命運原慎

はしがき

昭和十五年運勢讀本は、世にありふれた單なる運勢ごよみではありませぬ。

深く清い意圖によつて編述したものでありますから、初めから終りまで、隅から隅まで再三味讀せられて著者の意あるところを酌みとつていたゞきたいのであります。必ずや貴重なる何ものかを得らるゝことゝ信じます。

研運の方面としましては、慎原運命學研講所が多年の苦心體驗と天啓と新舊諸説の比較研究とによつて獲得した正しい家相法、正しい方相學、正しい姓名學(正名法)正しい治癒健康術等のある事を、廣くお知らせして、皆様が世上の營利業者の巧みな宣傳で感はれぬやう、そして誤つた方向に進まれぬやう十二分に心を配つたつもりであります。

(特に、正名法を名乗る似せ者あり、御注意)

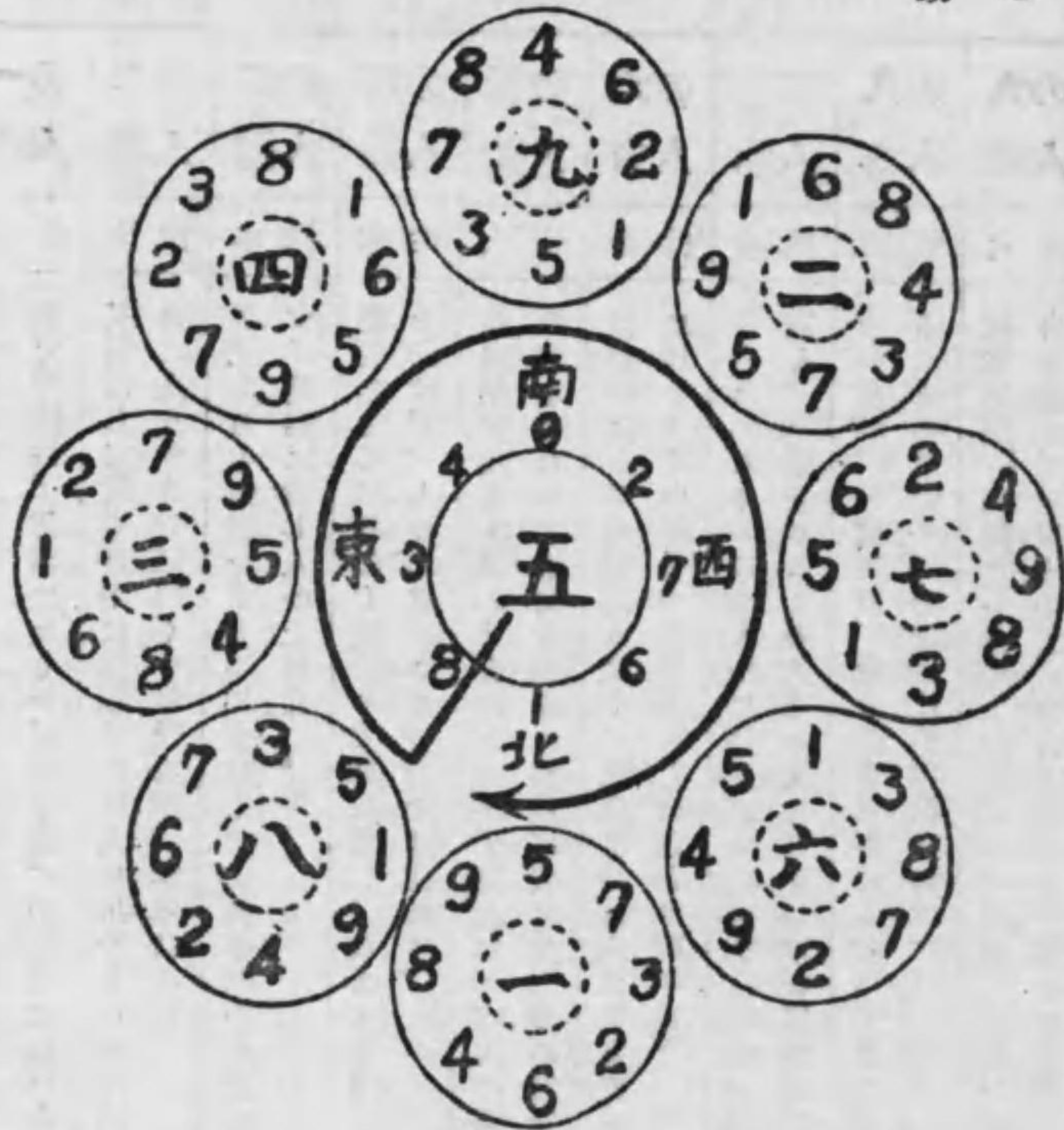
尚、六號活字の頁は、先年斯界に大好評を博して賣り切れた『開運の秘訣』所載の一



起九掛  
々  
原の算

# 表還巡運天性九

後天の  
活動



始創の象物  
(數の天先)

七	六	四
九	五	一
三	二	八

九星と天文

世には九星を迷信と斷ずる物識りが多いが、眞に研究するならば、陰陽哲學に出づる一大眞理なる事がわかるであらう。

九性の九と、太陽系の九と如何なる關係があるかは知る人ぞ知る。

宇宙の謎を解き吾人の運命を開く鍵は、實にこの九ツの數の中に秘められてゐることを知らねばならぬ。

◇天地位を定めて上下明かとなる。天恵み地敬してか之を受く。後天萬象の活動は其位置を變換す。

部分を再録し、御參考に供することゝ致しました。小冊子にて意の盡しがたい點はありますが、非常時局下、生活一新の手引として御活用下されば、著者のよろこびのみにとゞまりませぬ。御疑點ある方は、直接おたづね下されば解説いたします。

昭和十四年甲戌月

澁谷羽澤九八  
玉照庵しるす



## 明説の方凶大六

年月日共 五黄と對 する所	五黄の座 する方	其年の十 二支の對 する處	其月の十 二支に對 する方	各自の本 命の廻座 する方	本命の 反對	前頁の 圖参照
暗 劍	五 黄	歲 破	月 破	本 命	的 殺	都天殺 金神
これを犯せば突如として災害生ず。早きは即日、おそくも三年以内に、血をみるほどの辛勞出づ。親知主従反逆す。	五黄を犯せば、ピツクリする事あり、また、物事延引して遂に破れを來す。病は夜重し。	歲破は暗劍五黄と共に動土その他一切を忌む。これを犯せば家長に災生じ。四年目毎に凶災を受く。	これを犯せば物事破れを招く。四ヶ月目毎に災ひ生じ、四ヶ年つゞく。	本命即ち自分の生れ星の方位を犯せば、病氣となるか怪我することあり。	的殺も本命と同断であるが、六大凶方共に判断にはその定座と廻り座した九性の事象を加へてみるのである。	何れも金氣殺伐の方位であるから、これを犯せば争論起り、甚しきは傷害をけることさへある。
<p>「犯す」とは、凶方を顧みず、移轉、旅行、雜作、雇入、結婚等をとりに行ふ事でありませぬ。</p> <p>方凶は人間の自我を制伏するものでありますから、上長の命による官吏の移動等には障りが少ないのであります。</p> <p>尙、歲破や月破は例へば子の月ならば反對の午方が月破であるけれども、實際上には南の方全部を月破とします。</p> <p>そして凶殺を度々犯し、又重なる方を犯せば災禍又甚大、生命にかゝはる事さへあります。</p>						

### 方位とは何か？

宇宙は、靈・體・力三元の統一的活動であります。是を形體的に見れば圓と申すほかありませぬ。この圓なる大宇宙は、一つの方則によつて運行して居り、この方則は總て小宇宙たる人間個々をも支配します。即ち、宇宙生命の一分派たる私共は、その本體たる大生命と同一の方則を着て生きつゝあるので、私共が一たび自我的に行動する時は、この見えざる方則に制誅される——其處に吉凶を生じます。方相の學は、その一つを見極めたものでありませう。

天地とその徳を一にする至人は、その行動に無理や非道がないため、方災を受ける事もないのであります。自我の抜け切らぬ普通人は、先づその方則を學んで妄動せぬやう修行することが大切で、其處に方相學があります。

所謂「方位」とは、圓の三百六十度を南北（子午）の經線を基とし、八方位各四十五度宛に分ち、八方の中心から左右二十二度半までの部分を生命力發動の八方向（東西南北・乾坤巽艮）とみるのであります。この八宮は更に各々十五度宛三つ即ち靈力體に分けられ、廿四方位をなすのであります。家相の場合に

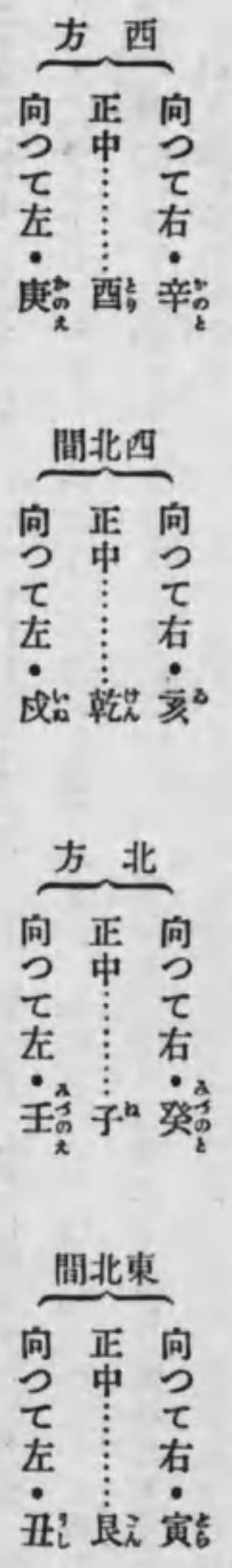
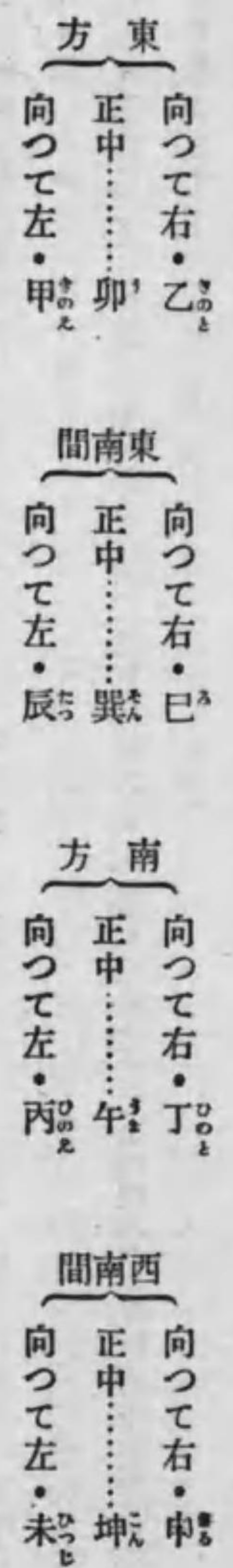
は、これを廿四山と稱して、その吉凶が、動かす、たとへば丑、艮、坤、辰、未、戌の如き土性の方位には、土氣と尅する水氣（湯殿、便所、墓所等）を凶とし、西の正中など金氣の旺んな部位には、この方徳を尅する火即ちカマドの類を置くを凶とする等、大體定まつて居ります。

人の場合にも、年齢の他に「生れ性」といふ個性があつて、その性と方位の性との相生相尅により吉凶を生じ、たとへば五黄土性年生れの人、土性と相性なる南方（火性）或は西方（金性）等に進めば一生順運で事業を起しても成功が早いといふのが原則であります。天の氣、地の性は年月日と共に一定の法則のもとに巡還してゐるため、廿四方位の吉凶にも變化があり、人事進退の時機は年月によつて異なるのであります。萬一、その時機を誤る時は、病災、破財、失戀等思ひがけぬ厄難に遭遇し、試鍊を受ける事は必然で、何人も否定の出来ない事實であります。

一般の運勢曆を見ますと、吉方位といふものが澤山並べてありますが、毎年の眞の吉方位は一方位しかなく、年々新しく進む道は一條であります。この方位に主力をそそぎ、餘他の方向には妄りに新規の事に進まぬやう指導するのが正しい方相家の役目であらねばなりません。この眞理が容易にわかつていたゞけぬやうであります。

初心者のため、左に八方位廿四山の見方をかゝけて置きます。磁尺をお求めの節は、この廿四方位に割

つたのでなければなりません。（表紙裏の方位定座御参照）



【右の如く、自家の中心から東方に向つて、正中の十五度を卯と云ひ、その左十五度を甲（木の兄即ち木性の陽）と云ひ、右十五度を乙（木の弟即ち木性の陰）といふ。更に東南間四十五度の正中十五度を巽（そん）と呼び、東寄りの十五度を辰、南寄りの十五度を巳といふ。餘他みなこれに準ず。】

この廿四方位中、見えざる氣の常に上下に動いて居るといふ部位が天干（甲乙丙丁等）で、見えざる性

が常に左右に流れ働いて居る部位が地支（子丑寅等）なのであります。悪臭を發する便所などは、上下に氣の動く十干の場所を撰ぶは此理からで、眞の家相方位は極めて合理的細密なものであります。

**家相書の南面吉相圖** 「家相方位は、有名な専門家に見てもらつたから安心だ」と思つてゐる方があるかも知れませんが、家相方鑑の法は廿餘種類あり。著者も曾て研究の時代にそれら從來の説に順ひ、所謂南面吉相圖そのままの建築をなし、大失敗を見た経験がありますから、御注意申上げて置きます。色々の研究體驗を経て正しい方式を知つて以來、御指導申上げた家が皆繁榮成功されて居るのであります。



昭和十五年は……

どんな年か？

神武天皇御即位紀元二千六百年。光輝ある昭和第十五年は、所謂龍（辰）の年で、九性の巡還は六白金性に當り、變化更新の氣の極めて旺盛な年柄であります。

十二支の辰は、天の星の名でありますが、天地は本來、一心の活動であつて、天象は直ちに地に應現し、

一如のはたきをなすの理を知るべきであります。即ち宇宙生命の分派たるお互は、この天地生命活動の玄理を體得して進退の時をあやまらず、天業翼賛の實を擧ぐべく心がけねばならないと存じます。

十干は庚（かのえ）納音（なつちん）は白鐵の金性にて、何れも陽剛の天質をあらはし、積極的に進むべき年なるを示して居るのであります。九性の六白金性は、宮中みかんなぎの八神中、大宮女神の徳に合し、創造歡喜を司り、藝術家或は天才的技術を有する者の大いに世に出づる年とします。たゞ、方位を犯して居る者は、此年災厄を免れないのであります。また、實力ある者でも、自我が強くして眞理に隨順せぬ者は天の咎めを受けますから、無理や非道を行はぬやう、何事も、長上に謀儀し、然る後に自己の見識を十分發揮するやうにとむれば、必ずや發展成功をかち得ます。

確信なくして妄りに人の後を追ひ、或はウカ／＼と他の言葉に迷ひ、見識なく行動する者は、思はぬ不覺をとり、數年後の運氣にまで影響する年でありますから、目先の慾に妄動せぬやう、國家としても國民としても自主獨往の見識を以て進むを要します。誤れる古い觀念を棄て、更始一新の生活に入る工夫をすれば、波瀾を乗り切つて光明の彼岸に達することが出来ます。實力を藏し、久しく隠忍して來た者は、龍が昇天するやうな勢を以て、今年こそ大躍進すべき時であります。尤も、前半年は事柄によつて自重を要します。尙、卷末の國運豫言を御熟讀下さい。本年は、麥、豆、麻、小豆、綿等は豐作年に當りますが、八九月頃大風が吹いて出水もあり、死人の多い兆があります。



本月は未だ昭和十四年度に属す。六白太宮の月にてその本徳は更新ゆえ、古い誤れる觀念を棄て獨創的見識を發揮して進む者は幸運を得。

年頭は特に神への奉仕を心がけ、九日以後は食色を慎しむを要す。方位を犯せし者は不幸あり。西北間は暗剣、東南間は五黄、西南間は月破の凶方。

九日午後十時五十三分より舊十二月節に入る。



本月五日より昭和十五年度に入る。五黄土性(靈感)月ゆえ、成るも成らぬも天命の意あれば自我を慎しみ神意を感受すべし。怠慢手落なきやう。

西南間中は月破の凶方。八日午後四時四十五分より舊正月に入る。

「大人は天地と其徳を合せ日月と其明を合せ、四時と其序を合せ、鬼神(干支)とその吉凶を合はす。」

一月節

六日より丁丑・太宮  
六白金性更新月

一	日	癸卯	七赤	平友引	舊十一月節
二	日	甲辰	八白	定先負	廿三日・下弦
三	日	乙巳	九紫	執佛滅	元始祭聖愛日
四	日	丙午	一白	破大安	信心日・東吉
五	日	丁未	二黑	危赤口	新年宴會
六	日	戊申	三碧	危先勝	小寒の入因縁
七	日	己酉	四綠	成友引	日曜・立命日
八	日	庚戌	五黄	收先負	靈感日注意
九	日	辛亥	六白	開赤口	舊十二月朔日
十	日	壬子	七赤	閉先勝	八せん入皇道
十一	日	癸丑	八白	建友引	東北間凶惟神
十二	日	甲寅	九紫	除先負	相愛日・南凶
十三	日	乙卯	一白	滿佛滅	信心日・北凶
十四	日	丙辰	二黑	平大安	(日)不成日

二月節

五日より戊寅・太宮  
五黄土性靈感月

一	日	甲戌	二黑	收大安	舊十二月節
二	日	乙亥	三碧	開赤口	廿五日・因縁
三	日	丙子	四綠	閉先勝	努力日・巽凶
四	日	丁丑	五黄	建友引	節分(日)○
五	日	戊寅	六白	建先負	立春・十五年
六	日	己卯	七赤	除佛滅	皇道日・西凶
七	日	庚辰	八白	滿大安	不成日・艮凶
八	日	辛巳	九紫	平先勝	舊正月朔日
九	日	壬午	一白	定友引	初午・信神日
十	日	癸未	二黑	執先負	●坤方暗劍殺
十一	日	甲申	三碧	破佛滅	日・紀元節暮
十二	日	乙酉	四綠	危大安	東南間わるし
十三	日	丙戌	五黄	成赤口	當つて碎けよ
十四	日	丁亥	六白	收先勝	三りん亡

十五日

丁巳 三碧 定赤口 七日・因縁日

十五日	日	丁巳	三碧	定赤口	七日・因縁日
十六日	日	戊午	四綠	執先勝	三りん亡立命
十七日	日	己未	五黄	破友引	靈感日・注意
十八日	日	庚申	六白	危先負	冬土用上弦
十九日	日	辛酉	七赤	成佛滅	皇道日・間日
二十日	日	壬戌	八白	收大安	惟神日東北凶
廿一日	日	癸亥	九紫	開赤口	日曜・大寒入
廿二日	日	甲子	一白	閉先勝	陽節上元始
廿三日	日	乙丑	二黑	建友引	永生日・坤凶
廿四日	日	丙寅	三碧	除先負	因縁日・東凶
廿五日	日	丁卯	四綠	滿佛滅	冬土用間日
廿六日	日	戊辰	五黄	平大安	巽凶注意日
廿七日	日	己巳	六白	定赤口	間日・西北凶
廿八日	日	庚午	七赤	執先勝	三隣亡皇道日
廿九日	日	辛未	八白	破友引	東北間凶
卅日	日	壬申	九紫	危先負	相愛日・西吉
卅一日	日	癸酉	一白	成佛滅	間日・下弦

十五日

戊子 七赤 開友引 國體明徴日

十五日	日	戊子	七赤	開友引	國體明徴日
十六日	日	己丑	八白	閉先負	上弦・反省日
十七日	日	庚壬	九紫	建佛滅	●南暗劍殺
十八日	日	辛卯	一白	除大安	日・不成就日
十九日	日	壬辰	二黑	滿赤口	西南間暗劍
二十日	日	癸巳	三碧	平先勝	雨水・因縁日
廿一日	日	甲午	四綠	定友引	専心努力の日
廿二日	日	乙未	五黄	執先負	十五夜注意日
廿三日	日	丙申	六白	破佛滅	満月・父恩日
廿四日	日	丁酉	七赤	危大安	●大きく出よ
廿五日	日	戊戌	八白	成赤口	日・反省日
廿六日	日	己亥	九紫	收先勝	三隣亡・不成
廿七日	日	庚子	一白	開友引	信心日・北凶
廿八日	日	辛丑	二黑	閉先負	性急なる勿れ
廿九日	日	壬寅	三碧	建佛滅	因縁日追善吉





立命(四綠)月なれば、突  
飛な行動をせず、何事にも  
秩序を立て、規律を守つて  
精一ぱい努力する者に吉運  
あり。年若い人には縁談も  
あり。交友注意。  
この月順調に進まざる人  
は、姓名或は家相に缺點あ  
ると知るべし。  
東南間は暗剣。西北間は  
五黄。西(とり)方は月破の  
凶方。  
九日午前十一時二十三分  
より舊貳月に入る。



因縁(三碧)月ゆえ、善悪  
共に過去九ヶ月間に播いた  
因(たね)が生える月とす。  
宿善なくば福運なし。つと  
めて善行に心がけ、物事に  
念入れて早まること勿れ、  
東西は暗剣・五黄。西北  
間戌の方は月破の凶方。  
八日午前五時十八分より  
舊參月に入る。

三月節

六日より己卯・太宮  
四綠木性立命月

一	日	癸卯	四綠除	大安	舊正月節
二	日	甲辰	五黃滿	赤口	廿四日變化日
三	日	乙巳	六白平	先勝	日・更始一新
四	日	丙午	七赤定	友引	國家的觀念吉
五	日	丁未	八白執	先負	不成日惟神日
六	日	戊申	九紫執	佛滅	啓蟄・地久節
七	日	己酉	一白破	大安	信神家は吉有
八	日	庚戌	二黑危	赤口	目標定め再考
九	日	辛亥	三碧成	友引	舊二月朔日
十	日	壬子	四綠收	先負	日・八せん入
十一	日	癸丑	五黃開	佛滅	精靈感應の日
十二	日	甲寅	六白閉	大安	三隣亡・乾凶
十三	日	乙卯	七赤建	赤口	國家的觀念吉
十四	日	丙辰	八白除	先勝	東北間用心日
十五	日	丁巳	九紫滿	友引	相主義よし
十六	日	戊午	一白平	先負	信心第一に
十七	日	己未	二黑定	佛滅	○上弦九日
十八	日	庚申	三碧執	大安	彼岸入・不成
十九	日	辛酉	四綠破	赤口	酒色を慎しめ
二十	日	壬戌	五黃危	先勝	當つて碎けよ
廿一	日	癸亥	六白成	友引	春分・皇靈祭
廿二	日	甲子	七赤收	先負	陽節・中元始
廿三	日	乙丑	八白開	佛滅	十五夜○反省
廿四	日	丙寅	九紫閉	大安	○満月三隣亡
廿五	日	丁卯	一白建	赤口	圓滿主義よし
廿六	日	戊辰	二黑除	先勝	社日・不成就
廿七	日	己巳	三碧滿	友引	交際用心東凶
廿八	日	庚午	四綠平	先負	人事を盡せ
廿九	日	辛未	五黃定	佛滅	精靈感應の日
卅	日	壬申	六白執	大安	信神堅固者吉
卅一	日	癸酉	七赤破	赤口	私事酒色慎吉

四月節

五日より庚辰・太宮  
三碧木性因縁月

一	日	甲戌	八白危	先勝	舊二月節
二	日	乙亥	九紫成	友引	廿五日利己慎
三	日	丙子	一白收	先負	神武天皇祭
四	日	丁丑	二黑開	佛滅	氣永く考慮吉
五	日	戊寅	三碧開	大安	清明・天赦日
六	日	己卯	四綠閉	赤口	○人事を盡せ
七	日	庚辰	五黃建	先勝	(日)神意感受
八	日	辛巳	六白除	先負	舊三月初日
九	日	壬午	七赤滿	佛滅	三隣亡精靈日
十	日	癸未	八白平	大安	反省失物注意
十一	日	甲申	九紫定	赤口	十方暮酒色凶
十二	日	乙酉	一白執	先勝	怠慢者不運
十三	日	丙戌	二黑破	友引	利に動く勿れ
十四	日	丁亥	三碧危	先負	○積善者漸吉
十五	日	戊子	四綠成	佛滅	上弦・精靈日
十六	日	己丑	五黃收	大安	不信心者不運
十七	日	庚寅	六白開	赤口	春の土用入
十八	日	辛卯	七赤閉	先勝	皇道日・西凶
十九	日	壬辰	八白建	友引	惟神反省日
二十	日	癸巳	九紫除	先負	穀雨・間日
廿一	日	甲午	一白滿	佛滅	(日)三隣亡
廿二	日	乙未	二黑平	大安	十五夜・満月
廿三	日	丙申	三碧定	赤口	因縁日酒色凶
廿四	日	丁酉	四綠執	先勝	間日・不成就
廿五	日	戊戌	五黃破	友引	交友注意
廿六	日	己亥	六白危	先負	方針變更漸吉
廿七	日	庚子	七赤成	佛滅	○皇道日
廿八	日	辛丑	八白收	大安	(日)失物注意
廿九	日	壬寅	九紫開	赤口	下弦・天長節
卅	日	癸卯	一白閉	先勝	圓滿主義勸め

南		
1	6	8
9	太宮二黒	4
東		
5	7	3
北		

得心の月五

永生(二黒)の月ゆえ、目標定めて氣は永く、熟慮を重ねて進めば二十日頃より順運となる。父母祖靈に、まめやかならざる人は不運あり。

西南間東北間は暗劍、五黄。西北間亥は月破の凶方。七日午後九時七分より舊四月に入る。

南		
9	5	7
8	太宮一白	3
東		
4	6	2
北		

得心の月六

信心(一白)の月ゆえ、心を圓く角立てず、神仕へ篤き人には祝福あり。

南北は、五黄暗劍。殊に北(子)は月破と重なる凶方なれば、移轉、旅行、就職等一切の事ひかへ目にすべし。

六日午前十時五分より舊五月に入る。

五月節 六日より辛巳・太宮 二黒土性永生月

一	日	甲辰	二黒	建友引	舊三月節
二	日	乙巳	三碧	除先負	間日八十八夜
三	日	丙午	四綠	滿佛減	間日三隣亡
四	日	丁未	五黄	平大安	陰陽廿七日
五	日	戊申	六白	定赤口	(日)端午
六	日	己酉	七赤	定先勝	午前吉・立夏
七	日	庚戌	八白	執佛減	舊四月初日
八	日	辛亥	九紫	破大安	三隣亡信神吉
九	日	壬子	一白	危赤口	八せん入
十	日	癸丑	二黒	成先勝	不成日
十一	日	甲寅	三碧	收友引	因縁日東凶
十二	日	乙卯	四綠	開先負	(日)入念努力
十三	日	丙辰	五黄	閉佛減	自我を戒しむ
十四	日	丁巳	六白	建大安	信念強者吉運

六月節 六日より壬午・太宮 一白水性信心月

一	日	乙亥	六白	破大安	舊四月三隣亡
二	日	丙子	七赤	危赤口	(日)私事は凶
三	日	丁丑	八白	成先勝	寛仁反省の日
四	日	戊寅	九紫	收友引	相互益を圖れ
五	日	己卯	一白	開先負	信心第一入念
六	日	庚辰	二黒	開大安	芒種舊五月朔
七	日	辛巳	三碧	閉赤口	酒良攝制積善
八	日	壬午	四綠	建先勝	敏速努力吉
九	日	癸未	五黄	除友引	(日)誘惑注意
十	日	甲申	六白	滿先負	十方暮忍耐吉
十一	日	乙酉	七赤	平佛減	入梅・皇恩日
十二	日	丙戌	八白	定大安	篤信者吉運日
十三	日	丁亥	九紫	執赤口	上弦・八日
十四	日	戊子	一白	破先勝	信心深く速行

十五日	戊午	七侯	除赤口	上弦・九日
十六日	己未	八白	滿先勝	寛仁反省の日
十七日	庚申	九紫	平友引	相互の爲善處
十八日	辛酉	一白	定先負	不怠圓滿吉
十九日	壬戌	二黒	執佛減	(日)母恩不忘
二十日	癸亥	三碧	破大安	三隣亡因縁日
廿一日	甲子	四綠	危赤口	小滿・十五夜
廿二日	乙丑	五黄	成先勝	(新廿一日陽下元始滿月)
廿三日	丙寅	六白	收友引	
廿四日	丁卯	七赤	開先負	大きく出よ
廿五日	戊辰	八白	閉佛減	精靈追善吉
廿六日	己巳	九紫	建大安	(日)篤信者吉
廿七日	庚午	一白	除赤口	飲食物注意
廿八日	辛未	二黒	滿先勝	急がす怠らず
廿九日	壬申	三碧	平友引	下弦廿三日
卅日	癸酉	四綠	定先負	協力あれば吉
卅一日	甲戌	五黄	執佛減	精靈感應の日

十五日	己丑	二黒	危友引	再思再考日
十六日	庚寅	三碧	成先負	(日)三隣亡
十七日	辛卯	四綠	收佛減	靈察反省努力
十八日	壬辰	五黄	開大安	不成日篤信吉
十九日	癸巳	六白	閉赤口	獨見獨行せよ
二十日	甲午	七赤	建先勝	十五夜・満月
廿一日	乙未	八白	除友引	夏至・注意日
廿二日	丙申	九紫	滿先負	相互主義吉
廿三日	丁酉	一白	平佛減	(日)祖靈追善
廿四日	戊戌	二黒	定大安	信神・氣永く
廿五日	己亥	三碧	執赤口	飲食物注意
廿六日	庚子	四綠	破先勝	不成日怠慢凶
廿七日	辛丑	五黄	危友引	誘惑注意
廿八日	壬寅	六白	成先負	三隣亡・下弦
廿九日	癸卯	七赤	收佛減	祖恩忘るな
卅日	甲辰	八白	開大安	○大祓・反省



同愛月なれば、相互主義にて進む時は願ひ望み叶ふ自己主義者は人望を失ふ酒色に注意せざれば金銭上の苦勞、婦人についての惱み生ず。

南北は暗劍五黃。東北間丑は月破の凶方。

五日午後八時廿八分より舊六月に入る。

七月節

一日	乙巳	九紫閉赤口	舊五月節
二日	丙午	一白建先勝	半夏生信心日
三日	丁未	二黑除友引	不成日氣永く
四日	戊申	三碧滿先負	因縁日・東凶
五日	己酉	四綠平赤口	舊六月朔日
六日	庚戌	五黃定先勝	當つて碎けよ
七日	辛亥	六白定友引	小暑(日)
八日	壬子	七赤執先負	八專入皇道日
九日	癸丑	八白破佛滅	靈祭り怠勿れ
十日	甲寅	九紫危大安	不成日篤信吉
十一日	乙卯	一白成赤口	酒色慎信心吉
十二日	丙辰	二黑收先勝	上弦・八日
十三日	丁巳	三碧開友引	良友にならへ
十四日	戊午	四綠閉先負	(日)三隣亡

十五日	己未	五黃建佛滅	祖靈を大切に
十六日	庚申	六白除大安	初伏・更生日
十七日	辛酉	七赤滿赤口	酒色執念去れ
十八日	壬戌	八白平先勝	不成日怠慢凶
十九日	癸亥	九紫定友引	十五夜・満月
二十日	甲子	九紫執先負	夏土用入
廿一日	乙丑	八白破佛滅	(新廿日陰節)
廿二日	丙寅	七赤危大安	(上元始)
廿三日	丁卯	六白成赤口	間日・大暑
廿四日	戊辰	五黃收先勝	同・神意行へ
廿五日	己巳	四綠開友引	人事を盡せ
廿六日	庚午	三碧閉先負	三隣亡・中伏
廿七日	辛未	二黑建佛滅	下弦・廿三日
廿八日	壬申	一白除大安	間日○信有吉
廿九日	癸酉	九紫滿赤口	利己主義慎め
卅一日	甲戌	八白平先勝	圓滿解決急げ
卅一日	乙亥	七赤定友引	大きく出よ



惟神(八白)月なれば、共存共榮主義にて、何事も見直し聞き直し宣り直すの徳を以て善處すべし。

友人や兄弟との交はりに注意し、目先の事に迷ひ誘はれる勿れ。

東北間西南間は暗劍五黃寅は月破の大凶方ゆえ、旅行等に注意。

四日午前五時九分より舊七月に入る。

八月節

一日	丙子	六白執先負	舊六月節
二日	丁丑	五黃破佛滅	廿九日靈感應
三日	戊寅	四綠危大安	不成日土曜
四日	己卯	三碧成先勝	間日・七月朔
五日	庚辰	二黑收友引	末伏・間日
六日	辛巳	一白開先負	豫言者出生日
七日	壬午	九紫閉佛滅	三隣亡南方凶
八日	癸未	八白閉大安	立秋・反省日
九日	甲申	七赤建赤口	十方暮西凶
十日	乙酉	六白除先勝	上弦・七日
十一日	丙戌	五黃滿友引	(日)自我破る
十二日	丁亥	四綠平先負	三隣亡異乾凶
十三日	戊子	三碧定佛滅	東西凶因縁日
十四日	己丑	二黑執大安	不成日氣永く

十五日	庚寅	一白破赤口	飲食色情因果
十六日	辛卯	九紫危先勝	相互主義速行
十七日	壬辰	八白成友引	友交用心
十八日	癸巳	七赤收先負	○十五夜満月
十九日	甲午	六白開佛滅	祖恩報謝忘な
二十日	乙未	五黃閉大安	篤信者吉運有
廿一日	丙申	四綠建赤口	努力精進日
廿二日	丁酉	三碧除先勝	不成日怠慢凶
廿三日	戊戌	二黑滿友引	處暑・氣永く
廿四日	己亥	一白平先負	三隣亡急ぐ勿
廿五日	庚子	九紫定佛滅	女靈供養せよ
廿六日	辛丑	八白執大安	下弦・廿三日
廿七日	壬寅	七赤破赤口	皇道日東西凶
廿八日	癸卯	六白危先勝	想ふ事實行吉
廿九日	甲辰	五黃成友引	自我は破れる
卅一日	乙巳	四綠收先負	不成日他力吉
卅一日	丙午	三碧開佛滅	善惡因果生ず

南		
6	2	4
5	七赤 太宮	9
1	3	8
北		

得心の月九

皇道(七赤)月なれば、何事も國家的觀念を以て善處すべし。一身一家のことに囚はれず、苦樂を衆と共にする心がけの者は權力を得友交に注意。

西は暗劔。東は五黄と月破重なるゆえ、東と西への事は一切七日までにすべし。二日午後一時十五分より舊八月に入る。

南		
5	1	3
4	六白 更生	8
9	2	7
北		

得心の月十

人眞似をせず、獨自の識見を以て進む者は幸運幸福を得。但し、物事急がず丁寧にし、貴上の意見をたゞしたる上にすべし。方位を犯せし者には不時の災あり西北間は暗劔。東南間辰は五黄と月破重なる大凶方一日午後九時四十一分より舊九月に入る。

九月節

八日より乙酉・太宮  
七赤金性皇道月

一	日	丁未	二	日	丙申
二	日	戊申	三	日	己酉
三	日	庚戌	四	日	辛亥
四	日	壬子	五	日	癸丑
五	日	甲寅	六	日	乙卯
六	日	丙辰	七	日	丁巳
七	日	戊午	八	日	己未
八	日	庚申	九	日	辛酉
九	日	壬戌	十	日	癸亥
十	日	甲子	十一	日	乙丑
十一	日	丙寅	十二	日	丁卯
十二	日	戊辰	十三	日	己巳
十三	日	庚午	十四	日	辛未
十四	日	壬申	十五	日	癸酉
十五	日	甲戌	十六	日	乙亥
十六	日	丙子	十七	日	丁丑
十七	日	戊寅	十八	日	己卯
十八	日	庚辰	十九	日	辛巳
十九	日	壬午	二十	日	癸未
二十	日	甲申	廿一	日	乙酉
廿一	日	丙戌	廿二	日	丁亥
廿二	日	戊子	廿三	日	己丑
廿三	日	庚寅	廿四	日	辛卯
廿四	日	壬辰	廿五	日	癸巳
廿五	日	甲午	廿六	日	乙未
廿六	日	丙申	廿七	日	丁酉
廿七	日	戊戌	廿八	日	己亥
廿八	日	庚子	廿九	日	辛丑
廿九	日	壬寅	三十	日	癸卯

十五日 辛酉 六白 建先負(日)午後斷行  
十六日 壬戌 五黄 除佛滅中秋明月三五  
十七日 壬戌 四綠 滿大安秩序を立てよ  
十八日 甲子 三碧 平赤口陰節中元始  
十九日 乙丑 二黑 定先勝 忌らず氣永く  
二十日 丙寅 一白 執友引 彼岸入三隣亡  
廿一日 丁卯 九紫 破先負 先に損後利  
廿二日 戊辰 八白 危佛滅(日)社日反省  
廿三日 己巳 七赤 成大安 秋分・皇靈祭  
廿四日 庚午 六白 收赤口 識見發揮せよ  
廿五日 辛未 五黄 開先勝 下弦・廿四日  
廿六日 壬申 四綠 閉友引 他力を借努力  
廿七日 壬酉 三碧 建先負 因縁次第漸吉  
廿八日 甲戌 二黑 除佛滅 母を忘るな  
廿九日 乙亥 一白 滿大安(日)信神第一  
卅日 丙子 九紫 平赤口 度を過す勿れ

十月節

八日より丙戌・太宮  
六白金性創造月

一	日	丁丑	二	日	戊寅
二	日	己卯	三	日	庚辰
三	日	辛巳	四	日	壬午
四	日	癸未	五	日	甲申
五	日	乙酉	六	日	丙戌
六	日	丁亥	七	日	戊子
七	日	己丑	八	日	庚寅
八	日	辛卯	九	日	壬辰
九	日	癸巳	十	日	甲午
十	日	乙未	十一	日	丙申
十一	日	丁酉	十二	日	戊戌
十二	日	己亥	十三	日	庚子
十三	日	辛丑	十四	日	壬寅
十四	日	癸卯	十五	日	甲辰
十五	日	乙巳	十六	日	丙午
十六	日	丁未	十七	日	戊申
十七	日	己酉	十八	日	庚戌
十八	日	辛亥	十九	日	壬子
十九	日	癸丑	二十	日	甲寅
二十	日	乙卯	廿一	日	丙辰
廿一	日	丁巳	廿二	日	戊午
廿二	日	己未	廿三	日	庚申
廿三	日	辛酉	廿四	日	壬戌
廿四	日	癸亥	廿五	日	甲子
廿五	日	乙丑	廿六	日	丙寅
廿六	日	丁卯	廿七	日	戊辰
廿七	日	己巳	廿八	日	庚午
廿八	日	辛未	廿九	日	壬申
廿九	日	癸酉	三十	日	甲戌

十五日 辛卯 三碧 執大安善因者善果有  
十六日 壬辰 二黑 破赤口 滿月・十六夜  
十七日 癸巳 一白 危先勝 神嘗祭・不成  
十八日 甲申 九紫 成友引 相互主義進め  
十九日 乙未 八白 收先負 反省熟慮要  
二十日 丙申 七赤 開佛滅 秋土用入  
廿一日 丁酉 六白 閉大安 間日・篤信吉  
廿二日 戊戌 五黄 建赤口 飲食色情者凶  
廿三日 己亥 四綠 除先勝 開日・霜降  
廿四日 庚子 三碧 滿友引 下弦・廿四日  
廿五日 辛丑 二黑 平先負 急がず氣永く  
廿六日 壬寅 一白 定佛滅 信心深くせ  
廿七日 癸卯 九紫 執大安 神祭者吉有  
廿八日 甲辰 八白 破赤口 慈悲寛大反省  
廿九日 乙巳 七赤 危先勝 國家の事急げ  
卅日 丙午 六白 成友引 見識發揮せよ  
卅一日 丁未 五黄 收佛滅 舊十月朔日

	南		
4	9	2	西
3	五 定座	7	
8	1	6	北
	東		

得心の月一十

天地の廣き心に安住して進むによろし。何事かに靈感響應を得る月。父母祖靈の祭を忘れず、墓參等につとめ居る者には幸福あり東南間、巳方は、月破萬事凶。  
廿九日午後五時四十二分より舊十一月に入る。

	南		
3	8	1	西
2	四 立命	6	
7	9	5	北
	東		

得心の月二十

五の努力をすれば五を得十の努力をすれば十を得らる立命月とす。他の協力を得ば一層吉。不運なるは不信祕者或は姓名家相、還境等の障りあるためなり。東南間、西北間は暗劍、五黄。南(午)は月破の凶方廿九日午前五時五十六分より舊十二月に入る。

十一月節

九日より丁亥・太宮  
五黄土性靈感月

一	日	戊申	四	開	大安	舊十月二日
二	日	己酉	三	閉	赤口	●飲食色注意
三	日	庚戌	二	建	先勝	○明治節●
四	日	辛亥	一	除	友引	心を圓く
五	日	壬子	九	滿	先負	八專入南北凶
六	日	癸丑	八	平	佛滅	佛まつり反省
七	日	甲寅	七	赤	大安	立冬上弦八日
八	日	乙卯	六	白	定	赤口人眞似禁物
九	日	丙辰	五	黃	執先勝	●當つて碎け
十	日	丁巳	四	綠	破友引	○精一杯努力
十一	日	戊午	三	碧	危先負	●歸つて來る
十二	日	己未	二	黑	成佛滅	氣永く信心
十三	日	庚申	一	白	牧大安	祖神忘るな吉
十四	日	辛酉	九	紫	開赤口	色情因反省

十五日	巳	戊	八	閉	先勝	滿月十六夜
十六日	癸	亥	七	建	友引	三隣亡西東凶
十七日	甲	子	六	白	除先負	○陰節下元始
十八日	乙	丑	五	黃	滿佛滅	自我は通らず
十九日	丙	寅	四	綠	平大安	●信念強進め
二十日	丁	卯	三	碧	定赤口	●掃いた種生ず
廿一日	戊	辰	二	黑	執先勝	敏活に氣永く
廿二日	己	巳	一	白	破友引	小雪・信心日
廿三日	庚	午	九	紫	危先負	新嘗祭・下弦
廿四日	辛	未	八	白	成佛滅	○弔事反省
廿五日	壬	申	七	赤	收大安	國家的觀念で
廿六日	癸	酉	六	白	開赤口	酒色の心改め
廿七日	甲	戌	五	黃	閉先勝	●當つて碎け
廿八日	乙	亥	四	綠	建友引	三隣亡・巽凶
廿九日	丙	子	三	碧	除大安	舊十一月朔日
卅一日	丁	丑	二	黑	滿赤口	飲食節度よく

十二月節

七日より戊子・太宮  
四綠木性立命月

一	日	戊寅	一	平	先勝	○信心日北凶
二	日	己卯	九	紫	定友引	舊十一月四日
三	日	庚辰	八	白	執先負	氣永くせよ
四	日	辛巳	七	赤	破佛滅	祖靈を大切に
五	日	壬午	六	白	危大安	祖神祭者吉運
六	日	癸未	五	黃	成赤口	食色節制せよ
七	日	甲申	四	綠	成先勝	大雪上弦九日
八	日	乙酉	三	碧	收友引	○兄弟善有吉
九	日	丙戌	二	黑	開先負	あせらず考へ
十	日	丁亥	一	白	閉佛滅	信心怠る勿れ
十一	日	戊子	九	子	建大安	相互主義吉
十二	日	己丑	八	白	除赤口	寛仁反省要す
十三	日	庚寅	七	赤	滿先勝	十五夜三隣亡
十四	日	辛卯	六	白	平友引	他言に迷ふな

十五日	壬	辰	五	黃	定先負	○滿月
十六日	癸	巳	四	綠	執佛滅	墓等の事注意
十七日	甲	午	三	碧	破大安	因果應驗あり
十八日	乙	未	二	黑	危赤口	氣永く養生
十九日	丙	申	一	白	成先勝	●怠らず信心
二十日	丁	酉	九	紫	收友引	●目前の利追勿
廿一日	戊	戌	八	白	開先負	●入念に反省
廿二日	己	亥	七	赤	閉佛滅	○冬至・下弦
廿三日	庚	子	六	白	建大安	信念實行せよ
廿四日	辛	丑	五	黃	除赤口	飲食を節せよ
廿五日	壬	寅	四	綠	滿先勝	大正天皇祭亡
廿六日	癸	卯	三	碧	平友引	東西凶因縁日
廿七日	甲	辰	二	黑	定先負	急がず氣永く
廿八日	乙	巳	一	白	執佛滅	●祖靈恩忘な
廿九日	丙	午	九	紫	破赤口	○舊十二月朔
卅一日	丁	未	八	白	危先勝	手おくれすな
卅二日	戊	申	七	赤	成友引	大被・皇道日

## 惟神易かんがらえきに基づく豫言の權威

ト占の法は、人事を盡して尙及ばざる處を、意志の統一に依つて、神の心（眞理）に透入し、因縁果の消息を靈知して進退を決する道で、生活に對する眞劍あから來るものであります。

我が國には、遠く神代の昔から、このトひが、ありました。神典、古事記上卷二神の嚴正婚儀（ミトノマダハヒ）の條（クダリ）に、人類の第一祖先、イザナギ・イザナミの二尊が、不審と思召されし事柄を、フトマニにうらなひ、天つ神の啓示（みしらせ）を受けられて善處し給ふた神話は、これを證明するものであります。支那でも、古い時代には、易道が發達し當時は國が隆盛であつたことを見ても、この道は人間の誠實努力の極に出づるものなることが明かであります。

今日の勤め人のやうに、生活が比較的單調で、つきつめた責任感がなく、曲りなりにも規定の時間さへ勤めれば、月末には間違ひなく給料が貰へるといふ人達には、ト占や朝夕の禮拜祈念などは、無智者の迷信だ位にしか思はれぬかも知れません。けれど、智者無智者を問はず、眞劍に努力してゐる限りは、多少とも迷ひなきを得ないものであります。しかも、努力は人の生命そのものでありますから、迷ひの解決法は人生必須のものであらねばなりません。本來、人智は有限でありますゆえ、迷ひを解く道は靈感即ち神智靈覺によつてのみ得らるべきで、それが第一要件は眞理に對して、あくまで謙虚敬虔な態度であらねば

ならぬ事でありませぬ。

この意味において、迷ひを去る道として、最も嚴肅なるべきは、朝夕の禮拜祈念であります。禮拜は、私共の生命の本體たる宇宙の神（眞理）を恭敬して、その尊とさを實感する道であり、これが、修業の進むにつれ、隨所に神人感應を得るに至り、眞理の軌道を感じて、おのづから迷ひの解消を得らるのであります。

更に一步を進め、鎮魂の玄境に入り、數の哲理を活用するに至れば、一切の物事の結果をも前知する事が出来、私共の生活の上に無駄が省かれて、眞に有意義なる生を営み得るのであります。然るに、現下一般の人々は、朝夕の禮拜祈念をすら怠り、鳥獸の生活に墮して居ります。或は禮拜の方式を誤つて迷信に墮し、神靈現象に囚はれて邪道を歩んで居る者も少なからずあります。

私共が微力ながらも一方に家庭聖化の運動を起し、神國民の生活態度一新を叫びつゝある所以は此處にあります。

ともかく、人の生命の必然性たる努力には迷ひを伴ふのであります。これを常識だけで解決しやうといふのは、其人の慢心であり、その努力に眞劍味の足りないことを裏書するものであります。殊に、現下の如き國家の超非常時に當つては須く私心を去り、小刀細工を棄て、天意を感受して善處する工夫をしなければならぬのであります。

先般の日英第一會談の節などにも、これが痛感されたこととありますが、本所は斯道から會談の結末を

豫言し、某氏を通じ誠心以て再三當局者へ果斷の處置をとることの賢明なるを進言したのでありますが、不幸にして用ひられず、結果は遂にあのやうな失態を演じ、内外に又々日本外交當局の無力ぶりをさらしたのであります。

これは一に要職にある人々が捨身的の御奉公をなさず、自己の地位、身分をのみかばひ、事勿れ主義、自己安全第一主義をとつたため、臣たるの道にそむいたものと申さざるを得ないのであります。

もとより、これには外交當局者の背後によからぬ者があつたといふ事、特に財閥、重臣、高官連の中に我が神國體を正しく認識せずして妄動したものがあつたためと存じますが、何と申しても公職にある人々に敬虔の念が乏しく、また會議結末の豫知、見透しが出来なかつたためと申すほかありませぬ。かくして無能外交と嘲けられ、この重大時局に立つて天業翼賛の實を擧げ得なかつたのは、返す人も遺憾千萬であります。

從來、物事を豫斷する方法として、賢きあたりにおかせられては、古くから龜卜の法を用ひさせられ、現代一般には専ら周易が用ひられて居ります。

この易は、我が神典古事記と表裏をなす深遠且つ行き届いたものではありませんが、易理の根本なる數の玄理が十分究明されてゐなかつたために、その方式が傳統的な不便利極まるもので、一つの事柄を卜ふのに、普通少なくとも三回の精神統一を要し、これを一回でも誤れば、その鑑定は當らぬこととなるのであります。三回共に統一を亂さず行ふといふ事は、老練の大家でも實際の上容易では無く、當るも八卦、當

らぬも八卦など、笑はれたものであります。そのみならず、これまでの易占では、占筮に當つて自己の精神統一状態の如何を正確にテストする方法さへ發見されてゐなかつたため、上下を通じて確信ある鑑定豫言をなし得る者がなかつたのであります。

このやうな譯で、從來の鑑定法の缺陷を補ふ天啓的な神占法の要望される事久しく今日に至りましたが十餘年前、無名の一青年であつた著者に遂に天啓は下り、茲にはじめて東西兩洋の卜占法を結ぶ理想的な方式が完成されるに至つたのであります。即ち、フトマニの玄理に基づく本所創見の神占法は、これまでの支那式鑑定法と異り、たゞ一回の鎮魂(精神統一)によつて的確な啓示を得られるもので、現に大正十二年以來、次々に發表した重大なる豫言が盡く的中して居るのであります。

斯く申上げて、それを世間並の單なる宣傳と誤解されては迷惑至極であります。毎年の國運豫言なども、横原運命學研究所の發表のものだけは、キツト當るといふ定評を受くるに至つたのは、この天啓的な神易のお蔭なのであります。敢て誇示するつもりではありませんが、九性六氣や、易は現今の自然科学で證明することが出来ないから、迷信だなどと考へるインテリゲンチヤの首を開くために、左に事實を列挙して大方の御關心を求めて置く次第であります。

◇惟神易に依る我が豫言の的中

關東大震災 大正十二年一月 麹町區三番町俱樂部に於て、本年東京に大異變起る旨を豫言す。當時廿五歳、著者の下宿酒井倉太郎氏一家は再度大震災に見舞はれし經驗があり、心痛されてゐるので、予が宿

る限り火難の憂ひなしと断ぜしに、劫火は果して向側までなめつくせしも、酒井家は安泰であつた。著者は震災の一週間前に現在の神すめらぎ會の前身、愛の會創立準備のため出雲に歸郷中で、大震災の厄難にも遇はなかつたのである。

**五・一五事件** 昭和七年四月廿五日、時ならぬ降雪に靈感を受け、日本國內改革の序幕となる異變事が五月中に突發する旨を豫言、修養雜誌「愛」四月下旬號第七頁にかゝぐ。果して五月十五日犬養首相凶彈にたふれ、民主的政治意識打倒の幕は切り落されたのであつた。

**支那事變に續く第三期世界大戰の豫言** 同じく「愛」四月號に、此年（昭和七年）より六年目（昭和十二年）の六月七月は、内治外交上の重大危機なるを警告し、これより第三期世界動亂に入つて、史軸廻轉、世界の地圖の新たになるを豫言す。

**二・二六事件** 昭和十年末發行、拙著「開運の秘訣」第八、九兩頁に亘つて、昭和十一年二月、政界の變あるを豫言し、梅花ほころぶ頃、宮城より西南方天道の方位に當り、大智徳の隱士あらはれ、昭和維新の警鐘を亂打するであらう事、竝に昭和十二年に至り、驚天動地の大事變（日支）生ずるを豫言す。

**日獨防共協定** 同じく右小冊子の月々動向の部に、昭和十一年十一月中、正理を以て進めば天地感應の理に依り、同志相應じて大吉果を結ぶを豫言す。

**支那事變の終結並に日英會談** 昭和十二年秋發行拙著「光は極東から」第廿九頁に、この年より向ふ三ヶ年異常の決心と努力を要する事及び米國に警戒を要する事、並に同書第二版附録に、昭和十四年六、七、八月が外交上の重大機なるを豫言す。

**日ソ停戦協定** 昭和十四年九月八日、新潟縣丹佐、早川兩染工場主の依頼により、日ソの關係を鑑識し

て、日ソはソ滿國境紛争程度にて一先づ片づく事。及び歐洲動亂が四年に長びく事。米伊の參戰等を豫言す。

（同十六日、日ソ停戦協定報せらる）

尙、去る八月四日（昭和十四年）〇〇特務機關主任小島氏夫人が天津に旅行することの吉凶鑑定をもとめられたので、水難あるを警告したことでありますが、果して天津六十年來の大水害に遭遇され、その中に驚かれた等の如き小さい例は、枚舉に遑ないのであります。

しかしながら、卜占の法は神力の活現であり、靈力體の統一的活動でありますから、たとへ一回の鎮魂と雖も、不用意に行はるべきものではありません。鑑定者は常に精神的にも肉體的にも安定してゐることを絶対條件といたします。心身の平靜を缺いてゐる時、即ち身邊にさし迫つた辛勞事などがあつて、風邪氣味の時や夜更した翌日等の健康のすぐれない時には、靈力體の統一を缺くために、決して當らないのであります。

その他、從來一般専門家にもかへりみられなかつた時刻の陰陽といふ事が、精神統一に重大關係がありこれを無視しては當らぬのであります。鑑定を依頼する人も、たとへ親しい間柄であつても、禮儀を守り必ず定めを守るべきで、決して輕卒にしてはなりません。これらの事に注意して行へば、必ずや百發百中であり、また我が惟神易の方式は最も簡明で何人にもたやすく學び得るものであります。

これが普及によつて、世を裨益するところ、また多大であらうと信するのであります。但し、これも輕卒な傳授は却つて弊害を伴ふため、定めを設けて口授し、體得者に一々免許證を交附することゝ致して居ります。



昭和十五年 運を開く要訣

一般の所謂「運勢曆」は、盡く傳燈的な九星(星に非ず)のみで吉凶を説き、本年は何年れの者は吉運で何年生れは凶運であるといふ風に斷定的に書いて居りますが、九星の本源は六氣に出づるものでありますから、これを無視して運氣を斷するのは、大なる誤りであります。

たとへば、同じ八白年生れの者でも、廿一歳の人と卅歳の人とでは、六氣のほかにも干支等が異なりますから、方位等の見方にも大いに相違があり、また同じ廿五歳三碧の人でも、今年不遇の者もあれば、幸運幸福をかり得る者もあります。これは、其人が天運の巡還に處する心得如何にあるのであります。

めぐる天運に善處する秘訣は、極めて簡潔であります。本書左にかゝけるコツと年運を心得て實行せられよ。必ずや大幸運或は大幸福を掴み得るであります。

尙、各人の正しい年齢は立春から節分までを一歳としますから、一月生れの者などは普通の數へ年に一歳を加へ、前年の干支九性六氣を見なければなりません。これを誤れば運氣を見ても徒勞となります。方位の詳しい事は、別に直接鑑定を求めらるゝのが萬全と存じます。

X X X

一、正名法に依つて名を正す事

二、家相地相に注意する事

三、方災を犯せる者は、吉方に一時移轉又は就職或は出張所を設ける等の方法を以て解除をはかる事

四、適業を選び、又進退の時機を誤らぬやうにすべき事

五、正しい宗教信仰に生きる事

◇以上は、一般的の注意であります。次の年運に應じて智力意の最善をつくし、善惡の因縁を果して自他共に幸福になるやう、心がけたいもので御座います。

九十二歳まで 生れ性と天運の見方

——各人生れ年の立春節分・九性・干支・納音明細——

一歳の人（昭和十五年立春二月五日より翌春節分二月三日迄の生れ・六白金性庚辰・白鑽金）本年は何事にも手遅れせぬやう御注意。生れつき聰明ゆえ、命名宜しきを得ば將來成功の望みあり。縁の定まるは少し遅し。

二歳の人（昭和十四年二月五日以後、翌十五年二月四日節分迄の生れ・七赤金性・己う年・城頭土）兄弟そのほか遊び相手の子達に注意し、病児等に近づけざれば安泰とす。東南間は何事にも大凶方。

三歳の人（昭和十三年二月四日より十四年節分二月四日迄の生れ・八白土性、戊とら・城頭土）すべて三歳迄は両親、特に母の想念が名よりも大影響す。両親は心がけ行ひに注意し、兒には入念と忍耐の習慣をつけ始める事。三つ兒の魂百まで續くといふ。

祝ひ事

◇命名式……人生れて七夜までに先づ命名式をあげる。選名は諸法式に注意を要す。

◇七五三祝……男女共三歳を鬘置の祝とし、五歳（男兒）を袴着、七歳（女兒）を帯解の祝ひとして何れも十一月十五日産土神に参詣、感謝祈願をなす。

◇経落し祝……七五三を略し、四歳の十一月十五日経落しの祝をなすもよし。名の善悪が影響確定するものも四歳頃からである。良名の子は此年から生命の安全圏内に入る。

四歳の人（昭和十二年立春二月四日より翌春節分二月三日迄の生れ・九紫火性、丁うし・潤下水）この年父母、祖父母等に對する禮を教へ守らせる時は一生の徳となる。死者の供養追善に心がけざれば病災不幸をみる。西北間は萬事大凶。

五歳の人（昭和十一年二月五日より翌春二月三日迄の生れ・一白水性丙ね年・潤下水）特に當歳より朝夕食事の直前に父母と共に祖神禮拜の座につかせる習慣をつければ、一生幸福者となる。

六歳の人（昭和十年立春二月五日より翌十一年節分二月四日迄の生れ・二黒土性、乙う年・山頭火）このとし、飲食物に注意し、月々肝蟲の豫防を怠らざれば一生健康に恵まれ、異性の難にかゝらぬものとす。

七歳の人（昭和九年二月四日以後、翌春節分二月四日迄の生れ・三碧木性、甲いぬ・山頭火）萬事手落ちの無いやう、よく氣を配れば幸福を得らる。病の再發、特に胃の養生に注意、東南間及び西北間を犯す勿

れ。

八歳の人（昭和八年二月四日より翌春二月三日迄の生れ・四線木性、癸とり・劍鋒金）つとめて善行を見習ははじめ、悪友や病兒に警戒すべき年。入學その他すべて東南間を犯せば不孝者となる。西北間も凶。

### 治病と保健の最新體驗

近ごろ、病弱體質の兒童らに肝油や酵母劑等が奨勵されて居りますが、効果はナカ／＼迅速には見えないやうであります。大人小人共に、後天的に病弱となるのは、糖分過剰による血液の酸化（腐敗）が一大原因のやうで御座いますから、無病健康を望む方は、第一に家庭で砂糖の使用を節する事。洋菓子類、コーヒー其他アンの入の甘いお菓子等を常用せぬやう、また總ての藥品は恐るべき複作用を伴ひますから、濫用を慎しまねばなりません。

治病と保健には、最も經濟的且つ手輕で萬病に實効大なる點から、著者は多年觸診による獨創的の一點灸を唱導し、多くの家庭に喜ばれて居るので御座いますが、これを健康體に施せば益々心身の健康を増進し、病毒細菌の侵襲を防禦し、これを病體に施せば諸病を退散治療せしめ得る兩徳があり、國民保健運動の一つとして是非とも全國に普及徹底せしめたいと念願して居る次第で御座います。

たゞ一つ、藥をあまり好まぬ筆者が近來珍ら

しい貴重藥として世に紹介して置きたいと思ふものは、今春小山化學實驗所完成のタンゾルゲンであります。これは未だ世人に、廣く知られて居りませぬが、ある動物の胆汁に人工を加へ色素等をぬいて精製、無臭としたもので、少量よく新陳代謝を盛んにし、人體の自然癒能力を強化して、強力なる解毒（酒精、ニコチン毒、日常の疲勞毒素、結核毒素、諸中毒）殺菌、解熱、強心、強精、利膽、消化、造血、鎮痛、竝に大小便の通じを快くし、體内諸臓器の炎症を去り、各ホルモンの分泌を正調し、氣力減退を恢復して最も合理的に若返りの實を擧げる、眞に天啓の藥であります。殆んどあらゆる（腸内の寄生蟲驅除は別）病症に同時奏効し、病的體質を根本的に改造強化するのが特長で、一般化學的藥品の如き複作用がなく、二週間以上も連続的に服用すれば人體の根本的活力を増強し

て病弱の兒童など著しく血色よくなり、燐複合體調劑等を加味して用ふれば相乗作用によつて一層藥効を顯著ならしめ、頭腦を明敏にする等漢法藥の牛黃、犀角と共に現代これ以上の良藥は無からうと信じます。

筆者は今日まで、國民保健運動の一つとして人體に無害で全體的に諸病を根絶する療法として前述の一點灸療法を主張して参りましたが、小山氏のタンゾルゲン主劑も、入院や手術等による一局部療法に比して、全體療法の目的を達するものであり、多大の共鳴を感じる次第で御座います。たゞ原料が高價なる由で、大衆向でないのが遺憾であります。（一日量〇・六グラム 壹圓位）

私の家庭で用ひた經驗では、子供の全身に發したジンマシン（ほろせ）が三服で全治し、蓄膿症が十日で全快。風邪などの豫防にも最も適藥

で、徹夜する時などには必ず服用して居ります。お医者のもて餘す神経痛と子供の百日咳が何れも十日ばかりで治り、肉の中毒が二ふくで解消、呼吸器病患者が食欲増進して快方におもむき、乳不足の婦人が乳量豊富となり同時に婦人病が治り、できもので苦しんでゐた某婦人は一ヶ月ばかりの服用で、顔のシミ、ソバカス迄も去り以前に倍して血色よく色白くなられし例など、身邊に見聞しただけでも驚異に値するものがあります。従来世に用ひられた、或る病の特効薬といふやうな、病氣を局部的に治す一般化學的藥品は、治病と共に体内に毒素を生じ、更に他病を誘發する大原因となるのでありますが、この薬を併用すれば解毒されて安全である事も吹聴に値します。人體に害なく、無病健康となるといふ薬は、近時種々宣傳されては居りますがそれらは大てい營養劑の類であつて、タンゾル

ゲンの如き大なる治病的偉力が無いやうで御座います。

この神薬の發見者小山氏は、本所の近くに薬局を営まれて居る篤信の藥劑師で、五六年前、はじめに本所を訪ねられ數の哲理教學一般を受講された事があり、當時實驗所名も選定してさし上げた等の縁故から、著者は同氏が今かやうな貴重薬を發見せられた事を、我が事のやうに嬉しく思ふのであります。本文も、もとより先方の依頼によつて廣告の意味で書いたもので無い事は申すまでもありません。

治病と健康の道は個人的にも社會的にも重大關心事であらねばなりませんから、特に紙面を割愛し、この良薬を紹介することが必ずしも無益で無からうと信じます。幸ひにして無病健康の方々はたゞ斯やうな神薬が發見されて居るといふことを記憶にだけ止めて置かれ、ば、他日

貴き人命を救ふ縁ともなりませう。動物の肝臓や膽汁製劑は、他にも數種出て居り、何れも結核病に主として用ひられて居りますが、不純物を含み、悪臭があり、タンゾルの如き飲み易い白色純正なものでは無いので御座います。國辱病結核を一掃する上のみから見ても、タンゾルゲン主劑の紹介の意義は十分に認められねばなりません。筆者は、これほど此薬の眞價を認めながら、一方また一設家庭に一點灸の實行をもお勧めして止まぬ者であります。近時、インテリ好みの種々なる新療法や高價な療器具等が噴傳されてゐますが、近代人の體質改造の立場から見れば、姑息的であり、根源にふれてゐない感があります。

療法の第一義は徹底せる修道に俟たねばなりません、單なる觀念的精神療法では治らぬ病が多々あります。長病で苦しんでゐる方は、醫師の診斷や経過をお知らせ下されば、私見を申し上げ、療病上の疑義にも出来る限りお答へする考へで御座います。宛名は澁谷區羽澤町九八神皇學會保健部(返信料添付の事)

尙、小著「何んな病でも手軽に治る」一點灸秘傳(頒價卅錢)を御一讀下されば家庭生活生活上にも何かと御参考になるかと存じます。病氣や健康状態の詳しい觸診鑑定、一點灸の急所指示等を望まるゝ場合は、直接御來所を要します。但し、これには別に規定がありますから、豫じめ御承知の上、御訪ね下さい。

九歳の人(昭和七年立春二月五日より翌八年節分二月三日までの生れ・五黄土性、壬さる・劍鋒金)何事にも順序を立て、急がず念を入れるやう、又目上の人にそむかなければ幸運。風邪に注意し、皮膚を丈夫

にする事。吉方良のみ。

十歳の人（昭和六年二月五日より翌春二月四日迄の生れ・六白金性、辛ひつじ・路傍土）父母祖先を敬ひ心の神様にそむかぬやう勉強すれば、思はぬ喜び事あり。轉校などはよろしからず。西南間、西北間、西は大凶方位。

十一歳運（昭和五年二月四日以後、翌年節分二月四日迄の生れ・七赤金性、庚うま・路傍土）東南間に旅行、轉校等大凶。人眞似せず自分でよいと思ふ事を實行せよ。但し、目上の人に反抗しないやうに。神を敬ふことを忘るなかれ。

十二歳運（昭和四年二月四日より翌春二月三日迄の生れ・八白土性、己み・大林木）喜び事多き年なるも口をつゝしみ、又食物に注意。異性の友に氣を移さず、勉強第一たれ。東と西北間は大凶方。七月以外は物事永續せず。

十三歳運（昭和參年二月五日より翌春二月三日迄の生れ・九紫火性、戊たつ・大林木）何事も手おくれせぬやう敏速にし、心を大きく悪いと思つた事を改めるがよい。手足の病、怪我に注意。人と争はぬやうに。吉方は西と北。

十四歳運（昭和貳年貳月五日より翌年貳月四日迄の生れ・一白水性、丁う・鑪中火）お友達に注意し、惡

友と交はらぬ事。但し、利己主義をつゝしむべし。東南間に入學就職などすれば親子不和となる。北、西北も凶。西南間と東は大吉。

十五歳運（昭和元年—大正十五年二月四日より昭和貳年貳月四日迄の生れ・二黒土性、丙とら・鑪中火）失敗、頓座しやすき年なるも圓滿主義なれば吉。七月頃萬事よろし。西北間、西南間、西、北、南の方位に就職や入學等大凶。

十六歳運（大正拾四年二月四日より翌春二月三日までの生れ・三碧木性、乙うし・海中金）目標定めて氣は永く、父母祖先に孝養をつくせば七月以後幸運となる。方位は東と南大吉。西南間西北間西大凶。

十七歳運（大正拾參年二月五日以後翌春二月三日迄の生れ・四綠木性、甲ね・海中金）信仰深き者は大幸福あり、修養に心がけ善行せよ。敬神の念なき者は火難、發病、短氣よりの失敗等あり。東南間は大凶方。西、西北間も不吉。

十八歳運（大正拾貳年二月五日より翌年二月四日までの生れ・五黄土性、癸ろ・大海水）就職等せば永續せず、苦勞虐待を受くる兆あれ共、七月頃ならば吉。秩序を守り飲食と異性の誘惑に打克てば運よろし。西北間は凶。

十九歳運（大正拾壹年二月五日以後、翌春二月四日迄の生れ・六白金性、壬いぬ・大海水）其行爲が天命

にかなへば思はぬ人の助けを受けて吉運。但し本年とりきめた事は何事も永續しがたし。修養第一とし、怠慢心を起さず敏活に。凶方は巽と東。

廿歳の人（大正拾年二月四日より翌年二月四日迄の生れ・七赤金性、辛とり・石榴木）交際に注意し、自己の見識で進退すべし。東南間を犯せば不運か不品行となる。悪友、病友に近づかぬやうに。

廿一歳運（大正九年二月五日以後大正十年二月三日迄の生れ・八白土性、庚さる・石榴木）幸運に恵まるゝ兆あるも、物事ていねいにし、急ぐ勿れ。國家的觀念で喜びを衆と共にすべし。西北間、西南間、西、北、南の方位は一切のこと不殊尾。

廿二歳運（大正八年二月四日より翌春二月四日迄れ・九紫火性、己ひつじ・天上火）運氣吉凶の岐れ目なれば父母や死者の供養を忘れず、自己反省を以て善處すべし。西南間、西北間、西は凶方ゆえ、萬事この方に進む勿れ。

廿三歳運（大正七年二月五日より大正八年二月三日迄の生れ・一白水性、戊うま・天上火）信心堅固なる者は祝福さる。何事も早目に事を運ぶべし。東南間は凶。自己主義を墮せず、互の利益を考へて進むべし。

廿四歳運（大正六年二月四日以後、翌年同月同日迄の生れ・二黒土性、丁み・沙中土）従來の業を守り、酒色をかたく慎しみて新しき事に手を出す勿れ。七月中は差支ひなし。南と乾は大凶方。

廿五歳運（大正五年二月五日より大正六年二月三日までの生れ・三碧木性、丙たつ・沙中土）動作は敏捷に、心は氣永くあせらず辛棒強く進めば運を開く。東南間、東、東北間を犯せば氣苦勞多く、病再發す。

廿六歳運（大正四年二月五日より翌春同月四日迄の生れ・四綠木性、乙う・大溪水）幸運なるべき年望み叶ふ。但し過去九ヶ年間の行ひ悪しかりし者は金錢散じ、辛勞甚し。東南間を犯せば親子不和となり、夜の災苦生ず。交友、兄弟に注意。

廿七歳運（大正參年二月五より翌春同月四日迄の生れ・五黄土性、甲とら・大溪水）何事も控へ目に出すぎぬやう、他力を借りて善處せば後半歳幸福を得。方位は甲乙艮のみ萬吉。寅は婦人の事凶。

廿八歳運（大正貳年二月四日より翌年節分二月四日迄の生れ・六白金性、癸うし・桑柘木）先祖や死者を供養し、墓参に心がければ思はぬ人の助力を得て幸福の年。自我を出し新機の事に手をそめば失敗す。良方のみ吉。

廿九歳運（大正元年―明治四十五年立春二月五日より翌大正貳年二月三日迄の生れ・七赤金性、壬ね・桑柘木）自己の識見にて進退し、妄りに他言に迷ふ勿れ、但し、神信心なき人は凶運。篤信家は七月以後萬事吉。東南間凶方。

卅歳の人（明治四拾四年二月五日より翌年同月四日迄の生れ・八白土性、辛る・釵釧金）酒色を慎しむ素

行よき人は喜び多き年。國家的觀念で進退すべし。七月五日より八月三日迄は庚辛艮坤すべて吉。其他の月は新規のこと八方凶。

卅一歳運（明治四拾參年二月五日より翌春同月四日迄の生れ・九紫火性、庚いぬ・釵釧金（慈悲、寛大、自己反省の人は幸運に轉換す。盜難、失物、手足の病に注意し、機先を制せよ。西と北のみ吉方。

卅二歳運（明治四拾貳年立春貳月四日より翌同月同日迄の生れ・一白水性、己とり・大驛土）良友に交はり、相互主義で進めば希望叶ふ。後半歳は婦人のことに注意。東南間を犯せば家庭不和となり、損失甚大。

卅三歳運（明治四拾壹年二月五日より翌春同月四日迄の生れ・二黒土性、戊さる・大驛土）九年に一度の沈運年。金銭や目下の心配多けれ共、圓滿主義で陰徳を積めば無難とす。艮、甲、乙方のみよろし。

卅四歳運（明治四拾年立春二月五日より翌春の節分二月四日迄の生れ・三碧木性、丁ひつじ・天河水）急がば廻れ。養生第一、祖先祖靈のまつり怠らざれば七月以後幸運となる。移轉結婚不吉。東と南のみ吉。

卅五歳運（明治卅九年二月五日より翌春同月四日迄の生れ・四綠木性、丙うま・天河水）神に不敬ある者は火難。家内不幸多し。篤信の人は望み叶ひ幸運に恵まる。東南間と西北間の新しい取引、造作、旅行等一切凶。

卅六歳運（明治卅八年貳月立春四日より翌年節分同月同日迄の生れ・五黄土性、乙み・覆燈火）規律を守

り順序よく他力をかりて努力すれば成功す。但し、酒色の難を嚴戒すべし。新事は凶。七月中のみ、西と艮吉。

卅七歳運（明治卅七年二月五日以後、翌春二月三日迄の生れ・六白金性、甲たつ・覆燈火）信心修養を第一とし、従來の業を守つて他事に迷ふ勿れ。その行ひが天命にかなふ者は祝福さる。吉方西と南壬癸。自我強ければ。事故起る。

卅八歳運（明治卅六年二月五日より翌春同月四日迄の生れ・七赤金性、癸う・金箔金）交際に注意し、邪友を警戒せざれば目上の怒りにふれて一生の運をそこなふ。独自の見識で進めば吉。東南間を犯せば不和不幸を生ず。

卅九歳運（明治卅五年二月五日より翌春節分同月四日迄の生れ・八白土性、壬とら・金箔金）金運あり、婦人の喜びあり、名聲あがる兆あれ共、口を慎しみ私事に墮する勿れ。勢ひに任せて凶方を犯す時は盛運續かず。艮方のみ吉。

四十歳運（明治卅四年二月四日より翌春同月同日迄の生れ・九紫火性、辛うし・壁土土）父母祖先のまつり、墓地墓石に注意。供養を怠る者は此年より衰運に入る。自重すべし。吉方は東と北のみ。

四十一歳（明治卅參年二月四日より翌春同月三日迄の生れ・一白水性、庚ぬ・壁土土）利己主義をいまし

め、物事速かにすれば幸運を得。天地の祖神を信仰し、生涯の方針を確立すべし。東南間は大凶。不信の者は不和災ひに遇ふ。

四十二歳（明治卅貳年二月四日より翌春同月三日迄の生れ・二黒土性、己の平地木）健康に注意し、酒色に溺れる勿れ。家庭圓滿をモットオとせば大過なし。陰徳に心がけ、施灸吉。七月中以外は新規の仕事凶。良と西吉。

四十三歳（明治卅壹年二月五日より卅貳年二月三日迄の生れ・三碧木性、戊いぬ平地木）古き病の再發に注意。物事放任、手落なく敏速に行動し、氣永く時運を待てば榮光を受く。吉方は南。西もやよろし。

四十四歳（明治卅年二月四日以後、翌春同月同日迄の生れ・四綠木性、丁とり山下火）吉凶共、過去九ヶ年の行爲の善惡に出づ。善行に心がけ、心を明るくすべし。兄弟友人に注意。東南間を犯せば凶運となる。

四十五歳（明治廿九年二月四日より翌春同月三日迄の生れ・五黄土性、丙さる山下火）實力あるとも、自己一人の力にては物事遂げがたし。性急をつゝし、順序を立て、進めば名聲あがる。新規の事は、甲乙良の方のみ吉。

四十六歳（明治廿八年二月五日より翌春同月三日迄の生れ・六白金性、乙ひつじ沙石金）目前の名利に囚はれず、自重すべき年。移轉、建築等せば永續せせず。墓相に注意。吉方は南と壬癸のみ。

四十七歳（明治廿七年二月五日より翌春同月四日までの生れ・七赤金性、甲ね沙石金）貴上の人に相談の上、積極的に見識を發揮すべき好機。七月以後運強し。方災ある人は凶運。神心堅固の人は幸運。東南間大凶。

四十八歳（明治廿六年二月四日より翌春同月同日まで生れ・八白土性、癸み長流水）幸運なれども新事、雇入れ等は七月中以外は永續しがたし。酒色嚴戒。食養に注意を要す。吉方は良と壬癸の方。

四十九歳（明治廿五年二月四日より翌春同月三日迄の生れ・九紫火性、壬たつ長流水）内輪もめ注意、物事放任せず、速かに解決すべし。吉凶ともに心得如何にあり。自己に嚴に他に寛大なれ。吉方東のみ。

五十歳運（明治廿四年二月四日より翌年二月三日迄の生れ・一白水性、辛う松柏木）兄弟や友人との交際に注意せざれば七月以後災あり。自己主義を慎しみ、禮儀を正しくせば吉運。東南間を犯せば親子不和となる。

五十一歳（明治廿參年二月四日より翌春同月三日迄の生れ・二黒土性、庚とら松柏木）身邊に憂ひあるも圓滿主義で入念に氣永く解決するによろし。新事凶。七月中のみ吉。甲乙良の方のみよろし。

五十二歳（明治廿貳年二月三日より翌年同月同日までの生れ・三碧木性、己うし霹靂火）父母祖靈をよ



く祭り、墓地墓相を正すべし。短氣を慎しめば七月以後萬事吉兆あり。吉方東と南。發病注意。

五十三歳（明治廿壹年二月四日より翌春同月二日迄の生れ・四綠木性、戊ね・霹靂火）吉凶共に過去に播いた種の生える年。信神深く、道のために盡す者は祝福さる。但し東南間は總て凶。善行第一とすべし。

五十四歳（明治廿年二月四日より翌年同月三日迄の生れ・五黄土性、丁ぬ・屋上土）酒色を慎しみ腰の病に注意。知己の協力を得て能率をあげる工夫大切。新事、雇入れは七月中のみ吉。吉方西と艮と壬癸。

五十五歳（明治拾九年二月四日より翌年同月三日迄の生れ・六白金性、丙いぬ・屋上土）その職業が天意にかなふ者は、人に立てられ幸福あり。自我方災ある者は不運。何事にも手遅れなきやう。吉方西と南。

五十六歳（明治拾八年二月四日より翌春同月三日迄の生れ・七赤金性、乙とり・泉中水）友人兄弟の誘惑にかゝらぬやう、獨自の見解で進むがよし。良き友をもつ者は幸福を得。東南間西北間を犯す勿れ。

五十七歳（明治拾七年二月四日より翌春同月三日迄の生れ・八白土性、甲さる・泉中水）國家的觀念にて小慾に囚はれぬ者は幸運幸福あり。但し、性急短慮なれば仕損する兆。言行に注意。吉方は艮のみ。

五十八歳（明治拾六年二月四日より翌年同月三日迄の生れ・九紫火性、癸ひつじ・楊柳木）死者の供養追善を怠らず行ふ者は、幸福あり。運氣の變り目ゆえ、新事は控へ目に。方位は東と北のみ吉。

五十九歳（明治拾五年二月四日以後、翌春節分二月三日迄の生れ・一白水性、壬うま・楊柳木）我慾を慎

しみ、神祭りを鄭重にする者は福運あり。相互主義にて進めば大吉、方位は西南のみよろし。火難、血行器病注意。東南間大凶。

六十歳運（明治拾四年二月四日以後、翌年同月三日迄の生れ・二黒土性、辛み・白鐵金）食養に注意し、色情に超然たれば吉。身邊に憂ひ事生ずるも圓滿主義よろし。七月中以外は新事凶。吉方は西艮。

六十一歳（明治拾三年二月四日以後、翌春同月三日迄の生れ・三碧木性、干支は庚たつ・白鐵金）物事放任、手落ちなきやう。怠慢なれば胃、肝の病出づ。氣苦勞多きも、忍耐強く善處すべし。吉方南のみ。

◇本卦返り祝……男女共、その誕生日を期し、還暦の壽を祝ふ。天干、地支六十一年目に元へ還るよりす。

六十二歳（明治拾貳年二月四日より翌春同月三日迄の生れ・四綠木性、己う・城頭土）宿善なき者は辛勞甚し。善行を積み、心を清め、明るく世を渡る人は幸運あり。東南大凶。交友に注意を要す。

六十三歳（明治拾壹年二月四日より翌節分同月三日迄の生れ・五黄土性、戊とら・城頭土）上下の協力を得て秩序的に進めば名聲を發す。急ぐは失敗。吉方は艮のみ。

六十四歳（明治拾年二月四日以後、拾壹年節分二月三日迄の生れ・六白金性、丁ろし・澗下水）先祖代々の靈をまつり、圓熟無我の人は幸福あり。運勢變化を兆すゆえ、物事控へ目よろし。南と壬癸吉。

六十五歳（明治九年二月四日より拾年同月三日迄の生れ・七赤金性、丙ね・澗下水）模倣せず、自己獨特の技倆を發揮せば成功す。腎臟病注意。信念を強く持つ事。東南間を犯せば親子の間不和、火難。

六十六歳（明治八年二月四日より翌春節分、二月三日までの生れ・八白土性、乙の・山頭火）七月以外新規の事に手を出せば永續させず、生死離別の厄に遇ふ。神心深き人は喜び重來す。吉方良。

六十七歳（明治七年二月四日より翌八年同月三日迄の生れ・九紫火性、甲いぬ・山頭火）運氣の變り目なれば、萬事急速に行ふ吉。何事も見直し聞き直し、宣り直す惟神の心境なれば災なし。吉方は北のみ。

六十八歳（明治六年立春二月四日―舊曆正月七日―より七年二月三日迄の生れ・一白水性、癸とり・劍鋒金）交際上のことに注意を要す。悪いおつき合ひに加はらぬやう、但し、自己主義なれば人氣を失ふ。眼病、腦、血行器病を用心すべし。

◇右、明治六年以後の生れは新曆・左記明治五年舊十二月二日以前は舊曆使用。

六十九歳（明治五年、但し四年拾貳月廿六日立春より新曆明治六年二月三日迄の生れ・二黒土性、壬さる・劍鋒金）目下の心配、苦勞多けれ共、圓滿主義にて氣永く解決せば後半年順調となる。方位良のみ吉。

七十歳運（明治四年、但し三年拾貳月拾五日立春以後、四年拾貳月廿五日節分までの生れ・三碧木性、

辛未・路傍土）祖靈をよくまつり、墓所等の手入を怠らざる者は幸運。吉方は南と甲乙方。

◇古稀の祝……人生七十古來稀なりの意より、長命を感謝し、祖先の冥福を祈り、誕生の日に紅白の餅を知己に配つて祝ふ。

七十一歳（明治參年立春正月四日より拾貳月拾四日迄の生れ・四綠木性、庚午・路傍土）因縁を貴び、逆縁に遇ふとも神心堅固なれば幸福となる。不信神なれば不幸あり。東南間を犯せば親子不和となり、損失憂苦を招く。

七十二歳（明治貳年、但し元年拾貳月廿參日立春より參年正月參日節分迄の生れ・五黄土性、己巳・大林木）食養に注意し、風邪にかゝらぬやう、健康第一に心がければ吉。吉方は西と良のみ。

七十三歳（明治元年立春正月拾壹日より同拾貳月廿貳日節分までの生れ・六白金性、戊辰・大森木）技能熟達の人には尊敬を受け幸運。自我慢心の者は絶望的のこゝろあり。萬事遲滞なきやう。西と壬癸南吉。

七十四歳（慶應參年、但し貳年拾貳月卅日立春より慶應四年正月拾日節分までの生れ・七赤金性、丁卯・爐中火）妄りに他の言葉に惑はず、自己の經驗を第一として進めば運強し。知友との交はりに注意。東南は大凶方。

◇慶應四年九月八日より明治元年と改めらる。

七十五歳（慶應貳年、但し元年十二月十九日立春より貳年十二月廿九日節迄の生れ・八白土性、丙寅・鐘中火）私事に囚はれず、大きい心で入念に事を運べば幸運幸福な後半歳を迎ふ。吉方は甲のみ。

七十六歳（慶應元年立春正月九日より同拾貳月拾八日節分迄の生れ・九紫火性、乙丑・海中金）慈悲、寛大、自己反省以て善處せば、幸福を保つ。祖先を大切にせざれば運氣變化あり。吉方北と東。

七十七歳（元治元年、但し文久參年十二月廿七日立春より慶應元年正月八日節分迄の生れ・一白水性、甲子・海中金）誠心以て神の道に仕へ又は宗教家の仕事を授ける人は幸運幸福を得。但し、東南を犯せば不和、病災起る。

◇喜壽の祝……七十七の三字を合せ、草書の喜の字に似るより、此年の誕生日を期し、善根を施し、祝餅並に袱紗又は扇子に喜の一字を書して配る。

七十八歳（文久參年但し文久貳年十二月十六日立春の日より同參年十二月廿六日節分までの生れ・二黒土性、癸亥・大海水）飲食物に注意し、家庭圓滿に心がけ小康を得。七月中以外は新事すべて凶。吉方は西と艮。

七十九歳（文久貳年立春正月六日より同拾貳月拾五日節分迄の生れ・三碧木性、壬戌・大海水）古い病の再發を用心すべし。何事も怠慢なく、早目に取かゝり、氣は永くするに吉。南方以外は七方凶。

八十歳運（文久元年の立春、萬延元年十二月廿五日より文久貳年正月五日節分迄の生れ・四綠木性、辛酉・柘榴木）古い知人に遇ふか、喜び事あり。善根を積めば心平安。兄弟などとの交際には注意。東南間凶。

◇喜壽の祝にならひ、八十を祝ふ向もあり。費用を節約して公共のために捧げる功德無量と知るべし。  
八十一歳（萬延元年立春正月拾參日より同拾貳月廿四日節分の日までの生れ・五黄土性、庚辛・柘榴木）性を慎しみ、順序を追うて、永く努力せば何事も成就す。吉方は艮のみ。後半歳順運。

八十二歳（安政六年立春正月二日より萬延元年正月拾貳日迄の生れ・六白金性、己未・天上火）夭折者の精靈を供養追善につとめ、物事控へ目にすれば幸福を得。造作、買物等すべて自ら進んでするは凶。吉方南と壬癸。

八十三歳（安政五年の立春、四年十二月廿一日より安政六年正月元日の節分迄の生れ・七赤金性、戊午・天上火）神心第一に暮せば祝福せらるゝ年。但し、東南間を犯せば親子不和、近火、病災等重來す。

八十四歳（安政四年立春正月十日より同拾貳月廿日の節分日までの生れ・八白土性、丁巳・沙中土）七月中以外は新しい事柄すべて凶。従前のまゝで食べ物、飲み物に注意して居れば幸福あり。衆と善びを共にすべし。

八十五歳（安政参年、但し安政貳年十二月廿八日立春の日より安政四年正月九日節分の日迄の生れ・九紫火性、丙辰・沙中土）思ひやり深く寛大に、なすべき事は早目に急いで片づけるやうにすれば、幸福を招来す。吉方西のみ。

八十六歳（安政貳年、但し同元年十二月十八日の立春日より、安政貳年十二月廿七日節分の日迄の生れ・一白水性、乙卯・大溪水）自己の利害のみを云はず、互の幸福を念として進めば望み事叶ふ。東南間は大凶。

八十七歳（安政元年立春、正月七日より同拾貳月拾七日節分迄の生れ・二黒土性、甲寅・大溪水）沈運の年なるも、圓滿主義で氣永く進めは憂ひ事解消す。陰徳に心がけるがよい。良方のみ吉。

八十八歳（嘉永六年の立春―同五年十二月廿六日以後、安政元年正月六日節分の日迄の生れ・三碧木性、癸丑・桑柘木）先祖のまつりを怠らず、忍耐強く氣永く事に當れば後半歳安心を得る。南と東吉。

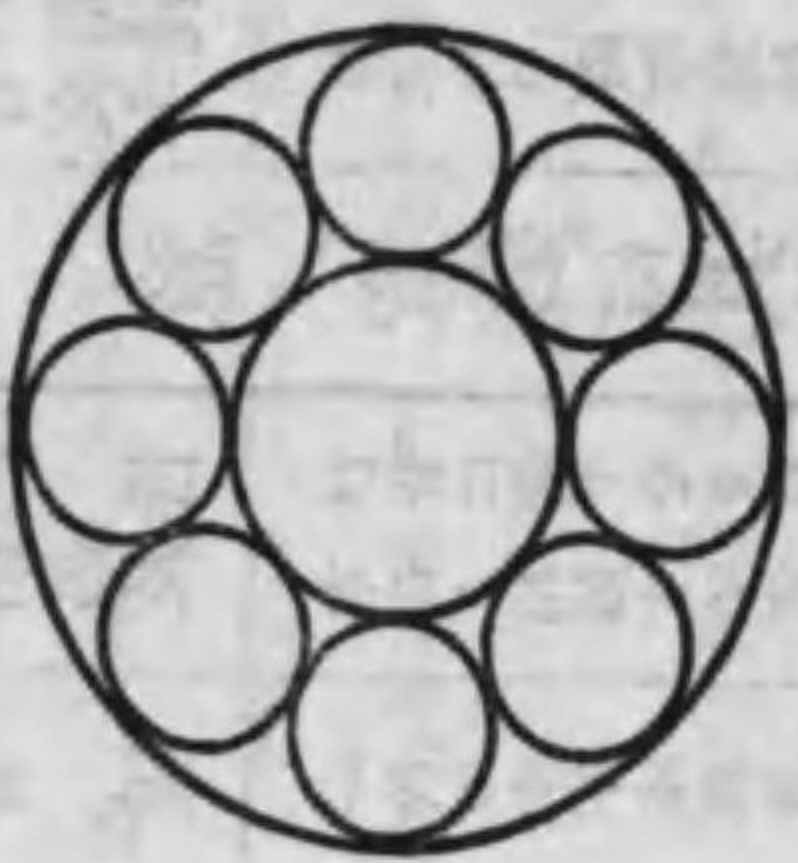
◇米壽の祝……八十八の三字を重ねれば米の字となるよりいふ。此年の誕生日に特に祖恩を感謝し、長命を祝ふ。

八十九歳（嘉永五年立春正月十五日より同拾貳月廿五日節分迄の生れ・四綠木性、壬子・桑柘木）吉凶とも過去九ヶ年に播いた種の生える年。積善に心がけ神心深くせば祝福を受く。東南間凶。

九十歳運（嘉永四年立春正月四日以後、同五年正月拾四日節分日までの生れ・五黄土性、辛丑・劬釧金）飲食物に注意し、規則正しい生活をすれば吉。七月中は物事進んでよし。良、西、壬癸の方吉。

九十一歳（嘉永三年の立春―同貳年十二月廿三日より嘉永四年正月三日節分日までの生れ・六白金性、庚戌・劬釧金）天地とその徳を同じうし、挽まらず働く人は幸運幸福を受く。新規の事は永續せず。

以上、簡潔ながら正確を期するため、相當の手續をかけた。一年間詳細毎月の運氣鑑識を望まるゝ向は、姓名生年月日職業を記し、成るべく前年末又は一月中に本所鑑定部に御申込下さい。料金は五圓。其他一般人事鑑定は一名貳圓以上。但し特殊の事情でお困りの方は、神皇學會相談部に御相談下さい。



東京市澁谷區羽深町九八  
市電高樹町下車・赤十字先

榎原運命學研講所

（振替東京三一〇二番）

# 最高研究 正しき姓名鑑定

數 (數は萬物の運不運を司る)

姓名の總劃數	一代の運、變化年、結婚運、壽命、子寶、金運等を知ることが出来る。
内運數	姓の下の子と名の頭字にて初年運即ち廿七歳までをみる。姓の頭字と名の下の子にて五十五歳以後晩年運をみる。
名數	名の劃數にて中年運即ち廿九歳より五十四歳までをみる。但し以上三者共に先天後天の兩面を見なければ誤りとなる。
天地人の權衡	天地人の數の順ならざる者は、毀譽褒貶足りなく、女子は容貌みにくし、順たるは内外の信用あつて、女子は美貌です。
陰陽の配合	配合凶なる者は心身不健全にして物心の調和を缺く。
音	音は一切の幸不幸を司る
五氣の變化	性格、病源、好嫌、等を知ることが出来る。尙、社會に名聲を博するや否やを知る。
音靈	一代の幸不幸及身邊に近づくものを知る。
相語性及	本命と相尅する者は父祖の業をつがず、思想の變化あり、呼び音に滞りなきは性順良にして運強し。
意	意 (意義は其使命人格を司る)
各文字の意義	費、治、禍等消滅的なる文字は心身に缺陥を生ず。
姓名の意義	讀下しよく、意義徹底せるは人格談見高く、自ら社會にもみとめらる。實義をなさざる者は不遇に終る。

# 親は氣を付けねば ならぬ子供の名前

<p>◇…良名は良心を生ずと申しますが、姓名文字の暗示と音波の調和が如何に子供の前途に大きい影響を與へるかといふ事について眞面目に考へて頂きたいものと思ひます。</p> <p>次に著者多年研究の一端をかゝげて御参考に供します。</p> <p>◇…名前の中に、正、富、政、榮等の文字を含む時は、自我強く、偏屈又は我まゝとなりやすく、姓との關係よき場合には發達します</p>	<p>が、初縁は破れ、相續人についての心配あり。父母兄弟の縁にも薄い意味があります。</p> <p>◇…豊、福、治、藏、等は家庭的不幸を招来しやすく、多情多感で病氣或は惡癖の去り難いものでもあります。これは改め或は雅號を用ひれば吉化します。</p> <p>◇…菊、金、は苦情が多く家庭不和、尙種々の意味を含んでゐますが、文字の如何にかゝはらず、不幸又は不運のおそれある呼名は、「とく」「よし」「とし」「あき」「ふじ」「しげ」「うと」「ひさ」</p>	<p>「よね」「しづ」「もと」「かめ」「しま」「ふみ」「とも」「なみ」等でありますから、これら既に命名後ならば改名或は號を用ひて不幸に陥らぬやう注意すべきです。</p> <p>◇尙、四季の名、動物の名、意義不明の名などは皆よくありません。吉き命名は生命の祝詞であります。數理音靈意義共によき姓名の持主は、自己の持つ、生れた天分を十二分に啓發し、幸運幸福に終始を完うします。</p> <p>但し三歳までは父母の觀念に左右されますから御注意。</p>
---	--	---

## 天聖尺の神秘

家相や墓相などは申すまでもなく、印鑑その他一切の器物を天聖尺（曲尺の裏）で測つて見せすと、驚くばかりに其吉凶が適中いたします。

物をお買ひ求めの時には、新古を問はず天聖尺の吉寸に當るものを探る事が、開運上にも極めて大切と存じますので、参考までに體驗をかゝげます。

.....

著者は數年前、知人の勧めで土焼の火鉢を求めましたが、その火鉢で子供が再々怪我をしたり、火傷をしたりするので、試みに天聖尺を當てゝ見ますと、果して災害の部に當つてゐることがわかりました。また、知人の家に再三火災にあひながら、不思議に焼失しない觀音像があるので、測つて見ますと大吉寸に當つて居り朝夕これを信心して居る其家は火災に遇ひながらも素晴しく繁榮して居るといふ例もあります。迷信臭く聞かれることゝ存じますが、事實は眞理であります。尤も、買物等は方位との關係も重大であり、これも多年の實際の經驗で輕卒にできないものであることを知らされた事で御座います。

數の玄理！と申しても左程六ツかしいものでは御座いませんから、此方面に興味のおありになる方は一日の研修を惜しまれないやう、徒に理論的迷路に墮せず、活きた事實を掴むことが肝要と信ずるからで御座います。

### ◇讀者諸氏に告ぐ！

白晝強盜、殺人横行の世相！これが萬物の靈長と誇る人類社會とは、

あまりに痛ましい状態ではありませんか。

私共は皆兄弟であるべき筈です。兄弟の愛を以て、共に勵げまし、共に喜び、互に世のため道のために盡したなら、私共はどんなに幸福な事でしょう。何時になつたら、これが實行されるでせうか。

實行しませう！ 實行しませう。

社會連帶の責任と一心同體愛こそ、私共が目醒めなければならぬ事ではありませんまいか。社會は私共自身を善くすることによつてのみ、これを

(1)

より良くすることが出来、社會を良くする事によつてのみ、また私共自身をより善くする事ができるのです。

而して、斷はるまでもなく、私共の社會は 天皇を奉戴する社會であり、私共の國は神の國であります。然るに、我が國民の大多數は宗教を失ひ、哲學を失ひ、實行の熱を失つて居ります。心あるもの奮ひ起つべき秋ではありませんか！ 先づ、家庭聖化より進んで世界聖化のために！

◇同感の方は、左記又は澁谷區羽澤町九八榎原玉葉宛に御住所芳名を御一報下さる。

東京市澁谷區羽澤町布目邸内 神すめらぎ會中央部

## 世界大戦と日本の國運 を豫言す

所長 玉 照 庵

聖書の詩篇を心讀して世界の移變を觀察しますと、今や世界は曩の歐洲大戦を第一期戦とし、その後各國の小競合ひ、波動的第二戦を経て、今將に終末の第三期世界大戦に移行しつゝあるやうで御座います。これが終局は、おそらく四ヶ年目となり、歐洲諸國は共倒れの運命を辿り、有耶無耶の裡に終りを告げることでありませう。

此戦ひを、或者は民族自決の獨裁國と安價な平和主義の民主國との思想的な戦ひであるといひ、或者は持てる國と持たざる國の生存的のいがみ合ひであると評し、様々な角度から見て居るやうで御座います。根柢に横はるものは、唯一片の物質偏重、利己排他の獸的惡魔的思想であり、物質文明の崩壊、物心一如の眞文化への陣痛でありませう。默示録の所謂惡魔の軍隊と神の軍隊との決勝戦は迫りつゝあるかに見ら

れます。

これを審判し、鎮定して地上に永遠の平和をもたらすものは、真正念の神の國家であらねばなりません。神の國家とは、祭教政一致(本來)の日本を指すのでありますが、我が國民に、果してその大自覺があるで御座いませうか。東亞の新秩序則世界の新秩序を叫ぶ前に、先づ私共は自己の足許をかへりみなければなりません。自家自身の榮達利福をのみ念じて、世界和平統一の大使命をもつ神の國民たるを忘却し、英米佛ソの假面をがむるジュウの奴隸となつて金儲けに専念し、營利一片の事業を進め、或は無自覺に事務をとり、文を賣つて世を渡る非國民態度こそは抹殺さるべきであります。

### 世界大戦の種を播いた者

そもく今次の大戦の種を播いた者は、所謂ユダヤ人(ジュウ)でありまして、彼が世界覆滅の大陰謀は二千年の昔から、着々と進められて來て居たのであります。

複雑怪奇なる語を以て評さるゝ現下の世界狀勢の裏を覗けば、其處にはユダヤの蛛網が縦横に張られ、偽裝ユダヤの徒が到る處に妄動して居るのであります。私共、真正念の神の國民は、先づ國內の大煤拂ひを斷行し、財閥、重臣、官僚、軍人、文士、政黨、雜誌、新聞、記者等々の中の偽裝ユダヤ蛛を掃滅し、何をおいても祭教政一致の神國態勢をととのへるの工夫をしなければなりません。それがためには、彼ユダヤ思想の何たるものかを熟知するを要します。孫子の兵法にも説かれる如く、「彼を知り、己を知らば百戦殆からず。」彼等の長所短所をよく知ると同時に、各自が日本人たるの本領に徹し、確乎不動の大信念を養つて、ジュウの陰謀の裏をかく大策戦に出なければならぬのであります。

試みに、ユダヤ人の秘密結社、マツソン社長の演説稿本を抜萃して御参考に供しませう。極秘中の秘とされる驚くべき文字であります。

### ユダヤ人の陰謀とは？

**自由、平等、權利思想の正體** 吾等は、各國民に對して、極力自由主義を鼓吹するけれ共、吾が結社の内では、絶對的無言服従である。

吾等(ユダヤ)の先輩が、自由、平等、同仁、四海兄弟なるモットオを民間に放つたのは、既に古代の



事であり、吾等の謀者（廻しもの）は之を世界の隅々まで宣傳した。今や幾千萬の民衆は吾等の陣營に投じ來り、此旗を擔ぎ廻つて居る。然るに此モットオは、到る處に安寧と秩序を破壊し、國家の基礎を顛覆して歐米人の幸福を破り、眞正なる人の自由を侵害しつゝある。所謂知識階級の皮相者流は、この語の抽象であることを知らぬ。その意味の矛盾性と調和性を知らぬ。

而して現象界には平等なく、自由のあり得べからざることや、自然に於ける知識才能の不平等が自然界の大法則であることを知らぬ。

吾等の放つた此のバチルス的モットオが如何に各國民衆を斃し、吾等の勝利を助長して居るかを、諸君は後日に於て首肯せらるゝであらう。

權利溺愛者を刺戟して權力を濫用させるためには、吾等は獨立解放といふ我まゝな主張を鼓吹して、あらゆる勢力を對立せしめた。自由といふ抽象的標語は、民衆をして政府を蔑視せしめ、政府とは國家の持主たる人民の番頭役に過ぎないから、何時なりとも交代せしめる事が出来るものだといふ觀念を與へた。人民がその代表者と考へる政府を交代し得るといふ事は、やがて吾等に其代表者を左右する機會を與ふるものである。

自由平等の思想は、人間を我まゝ勝手の者とするから、内亂、團體的鬭争を誘起する。人民に種々の權

利が主張され、要求されて來るため、國家と法律との力は段々に滅殺される。我等は、これを待つて其國家に新しい權利を獲得し、之を支配する地位を占めるのである。かやうにして、各國民は自由と我まゝ思想に溺れて、實權を吾等ユダヤ人に明渡すことになり、吾等は之を受取つて彼等を壓倒してやるのだ。

ユダヤの天下となつた時、國民學校で教へねばならぬ事は、人間各自の行動、價值が異なる限り、人類社會には平等はあり得べからざるものであるといふ事即ち人間を階級別とし、分業に安住せねばならぬことである。

眞の自由は、良心の自由平等を名として放縱我まゝをする權利ではなく、また烏合の衆的議場で駄辯を弄し、自他を混亂させることでもない。人の眞價は、各自の權利と同時に無權利を自覺するにあり、眞の自由は公共生活の諸規則を守る人の不可侵權である。單なる自己といふ者に囚はれ、執着して、眞理の道を誤つてはならない。

「自由」がもし「敬神」即ち眞理を恭敬することを根柢として四海同胞主義にもとづくものならば、國民の幸福を阻碍することなく、國家の組織は維持されて行くであらう。かゝる宗教信仰を有する人民は、地上に於ける寶座であつて、よく神の攝理に従ひ、教團に統御せられ、精神の父なる教導師の命に従ふものである。それ故に、吾等は宗教の根柢を覆し、世界人類の裡から「神」の觀念を抜き取り、之に代ふるに

打算と數理的要求とを以てしたのである。

斯くすれば、社會を指導するものは唯打算即ち金力のみになり、金力が與ふる物質的快樂のために金力のみを崇拜することになるのだ。そこで、各國の下層民は至善に勤むるためでもなく、又富のためでもなく、唯上流社會に對する憎惡から、吾等に服従して吾等の競争者たる上流社會の權力を奪はんとするのである。

また、吾等は文明進歩なる語を以て各國民を惑はせ成功した。物質文明の進歩が却つて眞理から彼等を遠ざける好餌たることを知るものは無い。神は、眞理の保護者たる吾等のほか、誰にも眞理が見えないやうに、巧みに蔽ひ隠して了ふのである。

吾等の世界統御策は、歴史的の經驗や時々刻々の注意深い觀察から來る。歐米一般の人士等は、公平なる史的實驗を基礎とせず、たゞ理論的迷路を辿つて其結果に對して少しも批判的態度を取らぬ。これ彼等の恐るゝに足らざる所以である。

彼等は當分歡樂に耽り、新しい歡樂を空想するがよい。又、過去の追想に耽り、吾等が與へた科學の命令を金科玉條として奉ずるがよい。吾等は新聞雜誌や圖書の力をかりて絶えず科學に對する絶對服従を鼓吹せねばならぬ。彼等の皮相なる智識階級は、その知識を誇るがよい。吾等の間諜が組立てた學問をば彼

等に試験させるのだ。

分り切つた虚偽な學説を吹聴して、吾等は各國の青年層を惑亂させた。吾等は最も嶄新進歩的に見える學説の製造に人心を向はしめねばならぬ。曾て宗教が國家を統御した時代もあつたが現今は金力が支配者となつて居ることを諸君は知らるゝであらう。吾等の動力は金力である。各國の科國者と稱する輩は、吾が結社の後に控へて居る忠實な準社員であるのだ。

自由平等のモットオ　唯物的科學、無神論、物質文明の謳歌と拜金主義鼓吹、これが吾等の有力な武器であり、現にその兇器を世界各國民の咽喉に擬して居るのである。

今日特に諸君に報告したいと思ふのは、吾等の目的が早や完成に近づいて來た事である。各國の主なる言論機關は既に吾等の掌中にある。現代の一大威力たる金力は既に吾等の手中にあり、如何なる大金でも二日間をもつて吾等の秘密金庫から取出し、世界何處の地へでも送達することが出来る。吾等の諜者は世界各國に暗躍し、調査と感化の兩機關を兼ね、革命主義や自由主義の分子を悉く糾合して政治的陰謀を起さしむべくそゝのかし、到る處成功を收めつゝある。世界各國の上流、下流、吞氣な行政官階級、著述家出版業者、書店の番頭、職工、トラツク運轉手、家僕等々は、吾等の諜者の諜者たる役をつとめつゝある。

諸國が、今如何なる對策を講ずるとも、既に遅い。何となれば吾等は二千年の日子を費して各國民の間

に抜くことの出来ない分離の根を張らせて置いたのだ。一朝、事あらば各國の首都に通ずる地下鐵道、その他重要機關の爆破を一瞬の間になし得る手配がととのへてあるのだ。

たゞ、吾等の権力外に残つてゐる國は二三あるのみで、他は悉く掃除を了り、吾等の行く道路には、何の障害もない。吾等の超越政府は正に超帝權の資格を具備し、各國の有力者活殺自在の方略を成功して居るのである。しかも、彼等の大部分は、吾等の計畫さへも感知し得ず、世界平和、人類救濟等彼等の喜びさうな談話、講演をなして廻れば吾等の謀者の謀者たる報道機關は血道をあげて譏辭をあびせる仕末である。

### 立憲政治共和政の正體

世界各國は今、不治の病にかゝつて苦悶中である。それは吾等が敵なる諸國に注射したりベラリズム（自由主義）の猛毒のためだ。リベラリズムから憲法政治が生れたのであるが、此政體は運用方法を巧みにしないと紛擾と争論の無益の學校となつて了ふ。議會の辯論は刊行物以上に王者の行動と勢力とを殺ぐものだ。

民衆といふものは、つまらぬ意地や、迷信や、小理窟に囚はれて鬭争を起し、分り切つた事にでもナカ一致せぬものだ。彼等は政治上の秘密を知らないから、何でも多數決といつたやうな愚にもつかない事で決議をして、無政府の種を蒔くものである。

共和政體の如きは、最も愚劣なるものの一つであらう。政治上の畸形兒たる大統領が出来る。大統領は吾人の手足たる民衆に選舉させるから、結局は彼も吾等の命を奉じて働かねばならぬやりになる——我等は大統領に新憲法を制定させ、吾等の掌中に立法能力を収めて了うのだ。痛々しいのは貧乏人達である。彼等は日々の衣食に追はれるから、自分の權利を利用する事が出来ないで、雇主或は仲間の罷工に左右せられて、確實な常収入を失ふのである。

### 君主神權政體の招來

最も優越なる政體は獨裁君主政である。獨裁君主のみが、諸般の計劃を統一し、國家機關の上に按配し、秩序を立て、處理することの出来るものである。故に、國家の利益になる政治は、責任ある獨裁主權者の掌裡に歸しなければならぬ。吾等の主君は神意によつて定められたものであつて、理智ではなく、寧ろ性情によつて統治する。

將來政權が吾等の手に歸する時、一切の憲法を除去する階段として諸制度を一つ／＼取り除いて置く。

そして憲法政治の變更を提議する。尤も吾等の獨裁政治は立憲政破壊以前に承認されるかも知れぬ。理窟屋は、專制政治は爲政者に勝手な暴戾を許し、下民は甚だ不幸であるなど云ふのであるが、ソ聯の例をみるがよい。彼レイニン、トロツキー等が口に民主共産を唱へながらなしつゝある暴虐は、これを何れの國の帝王、何れの君主に見出されるだらうか。

たゞ、先見の明ある王者と盲從的な國民とが合する時、吾等ユダヤ人にとつて最も恐ろしい強敵である。尤も、それが憲政を採用するならば、やがて我が結社に従屬するに至る行程に上つたものだ。民主、共和の如きに至つては事實上既に屬國と云つてよい。

### 労働と食糧の問題

吾等は今、自己の掌中にある金力と陰謀によつて世界に經濟的恐慌を起して一時に労働者が住むに家なき有様を招來させるであらう。さうすれば、彼等は日頃から敵意を抱いて居る富者の血を吸はうと集り、掠奪をはじめるであらう。吾等は又各國の工業を破壊する方法を豫じめ設けて居る。吾等が鼓吹した贅澤的要求を益々ひろげ、勞銀を益々騰貴せしめる。この勞銀は労働者にとつては何の利益も與へないものである。何となれば農業畜産の衰微を名として日用品の價格を引上げるから、吾等の謀計を中途で以て悟られないやうに、表面上労働者階級を助け、吾等の經濟學者の主張して居る經濟原則を擁護するかの如く装うて、吾人の本心を蔽ひかくさねばならぬ。今日の食物の缺乏は、各國民をして否應なしに吾等の奴隸たることを甘んじさせねばならなくなる。

吾等が世界を統一した暁には、一切の奢侈品を制限し、工業家の私有資本を覆すために、家族的工業を復活させる。家族工業家は失職が無いから、よく主權に服従するであらう。また我等は自衛の原則に基き民衆を抑へるに課税を以てする、但し、我等は民衆の父であり、保護者であることを忘れない。税金の償却は税金累課から始め、何等の苦痛も破産の恐れもなく財産率に應ずるやう仕向ける。

貧乏人に課税することは、革命の種子であつて國家にとつては損失である。これに反して資本家課税は我等が各國民に對抗する爲に個人の手に集中して置いた富を、個人的に増加させないことになる。財産率に随つて増加する税は、目下の住民税（人頭税）などよりは、遙かに多くの收入を與へるものである。人頭税などは、各國民に動搖と不平を起させるためにのみ必要なものだ。我等の謀者は巧言以て是を各國の爲政者に行はしめつゝあるのである。

吾等が世界統一の政策は、極めて原始的で、爲政者は親權を以て人民に臨み、後見するのである。國民

は爲政者を見ること父の如くであらう。さうなれば臣民は平安の生活を送るには、爲政者の親切と指導とに便るの外はないと觀念するから、神を敬するに近い尊敬を以て吾が爲政者を仰ぐことになる。而して神政が復古されるのだ。

(著者註 聖書に曰く「エツサイの株より芽出で、神政を復古すべし。」と。此エツサイの株とは、實は我が神國日本の事なのであります。全世界各國に散らばつてゐるユダヤ人は、エツサイの木の子葉であり、彼等が夢想してゐる神の國は、極東日本であることを知る時が来るであります。そして、彼等は世界人類の祖國、日本に復歸するに至るであります。現下我が國のデモクラ民政意志の政治家たちは、この神の國日本の尊嚴を冒瀆するものであります。)

### 投機買占獎勵の真相

吾等の煽動に乗る國民は、キツト政權爭奪の鬭争を起し自滅するであらう。吾等は彼等を自由に踊らせ頃使することが出来る。富といふものを大がかりに獨占するのは吾等當面の目的である。列席の經濟家諸君！ この仕掛の意味を極力實踐せられよ。吾等は地租を高めて貴族を破産せしむると同時に、商工業、殊に投機買占を保護獎勵せねばならぬ。工業によつて吾等は土地から人と資本を奪ひ、投機の世界を経て

滿天下の黄金を悉く吾等の手中に收めるのだ。各國民は下層に沈淪して吾等の足下にひれ伏すより外に方法がなくなるであらう。

吾等の王者の頼みとする力は、均衡と平和の保證とである。之がためには資産家が國家機關の安全運轉のため、自己收入の一部を割かねばならぬ。國費は苦痛を感じないものから出すべきだ。斯くすれば、富者に對する貧者の憎惡が薄くなり、富者を以て國家財政の補助者と見做し、平和安寧の整頓者と見るやうになるであらう。

金貨本位は國家のため不幸の因たる事は諸國の既に了解せる所である。何となれば、吾等は能ふ限り金を融通界から取上げたから、金貨は紙幣の消費を満すに足らないのだ。財産破綻には、金融界から貨幣を取上げてしまふことだ。是は吾等が各國に仕組んだもので、國家から金を引上げたから巨額の資本が溢滞し、堂々たる國家が吾等ユダヤ人に國債を仰がねばならぬ破目になつたのだ。これらの國債は利子の支拂で十分に國家を苦しめ、残る元金でその國家が自ら吾等の奴隸となる。そして企業家の手に經營せられる工業は、國民の膏血と國家の富とを吸ひ盡して吾等の世界乗取りのお先棒をかついでくれるのである。(著者曰く「この恐しいユダヤの陰謀の裏をかく秘策を、神國日本の具限者は既に有つて居るのであります。否、これは既に數千年前、我が神典に啓示せられて居るところで、貨幣の事も、課税と土地の事も根

本的に考へ直されねばなりません。これが早急に實現されぬのは、國內にユダのお先棒をかついで自家の名利に狂奔し、私慾を逞しうして居る國賊的人士が横行して居るためであります。憂國の士は、敵前作業の覺悟を以て、これら自由主義經濟者の妄動を誅し、建設の道に捨身活躍するを要します。

### 神國出現と既成宗教の没落

斯やうな種々の方策を以て吾等は世界各國を困憊疲勞せしめ、國家の勢力を掌中に收めて超越政府を造る。この大政府が各國民を征服せざれば止まぬ如き大機關を具へて釘拔の如く八方へ擴がる。各國の主權は忽ち動搖し、崩壊する。斯くして吾等の確立する主權は何者もこれに打ち勝つことが出來ないのだ。何となれば、吾等の主權は變幻窮り無く、如何なる智謀奸計も之を覆へすことの出來ぬやうになるまで、何人にも分らないからである。吾等の王の神聖なる頭上にヨーロッパ諸國から捧呈する王冠を戴く時には彼は世界のパトリアークになつたものである。吾等の王は世界の眞教主となり萬國教會のパトリアークとなるであらう。

吾等が全世界の權力を掌握した時には、吾等の絶對一神教以外に宗教の存在を許さないのである。一般の既成宗教は、今後如何にあせるとも、凋落の一路を辿るばかりであらう。(二五七八年「公論」取意)

以上、ユダヤ・マツソン結社長の演説草稿要點を拾ひ讀んで今更ながら驚嘆させられる事は、彼が陰謀の餘りに深刻壯大なると、その方法手段の惡辣にして巧妙なることであります。

現に彼等は全世界の通信網を掌握し、全世界の金力を集蓄して金權の毒酒に酔へる各國の亡者たちを踊らせ、これを手先として國を攪亂し、戰爭を長びかせて各國の衰耗を策しつゝあるので御座います。

### 新聞に讀まれてはならぬ

これら現代世相の裏を知らない人達は、各國のユダ通信を讀まされてゐながら、「あの新聞は報導が早い」などと喜んで居る有様で御座います。

東京市内で比較的正しい批判をする日刊新聞は、著者の知る範圍では帝國新報ほか二、三あるのみであります。同紙などは非常時局下の我が國民諸賢へ御購讀をお勧めしてよいと信じます。

(京橋區西銀座七丁目六番地同社一ヶ月郵税共六十錢)但し著者は同新聞の讀者であるといふ以外、何等關係はありません。よいものを、正しいものを世に紹介したいといふ趣旨からで御座います。

却説ユダヤ人は一たび祖國を失ひましたが、世界に散在して各國の滅亡をはかり、全世界を我が物とすべく、用意周到に進みつゝあるので御座います。

實に世界列強の獅子身中の蟲であります。このユダヤ禍を排して先づ國の建て直しにかゝつたのはナチスドイツであり、盟邦イタリアであります。我が日本は、いち早くこれと盟を結んで世界の新秩序建設に乗り出すであらうと期待されましたが、これを妨害したものはジユウ（ユダヤ）の手先共でありました。そして現はれたのが奇怪な蛙面弱體〇〇で御座いました。憂國の同志は眞に痛憤の涙を吞んで居ります。しかしながら、我が日本は、あらゆる點に神護の厚い國、ユダヤ人に最も恐れられてゐる國で御座いますから、心ある者は此際一層協心協力して祭教政一致の神政復古に捧げ合はねばなりません。論ずるだけでなく共に實行するを要します。讀んで感ずるだけでなく、手に合ふものを取り、呼應して起たねばなりません。

資財をもつ者は、下らぬ事を止めて、神業に貢献すべきであります。

**神業とは何か** 神業とは、祭教政一致の神政復古を成就する事業であります。先づその思想を普及するため、定期刊行物の類が必要。また大々的の宣傳、圖書出版も緊要で御座いませう。ユダヤの手先共を掃滅するため、堅き結束も必要で御座います。かやうな事業に投資する功德は無量であり、子孫までも祝福されるであらう。そして出版は其方法によつては、利殖の目的を達することも可能なのであります。

### 昭和十五年の日本國運を豫言す

………□………

本年の我が國運は、幾山河を越えて漸く一望の見通しのつく大平原に出たやうな更新的運勢で御座います。行手にはなほ高低があり、進路に思はぬ沼もあります。他國の青年の動靜に注意し、事に臨んで奇智を以て突破するの心がまへがあれば、障害も恐るゝほどのことはありませぬ。たゞ一陣の風害にそなへ東南間と西北間に特に注意を拂はねばなりません。

易で申せば風地觀、國の本命は因縁宮に入りますゆえ、吉凶共に過去九ヶ年の所業が果を結ぶ年。九性は六白で創造更生年に當り獨自の見識を揮つて效大いに擧る年柄。本年こそは英米依存の舊態外交を一擲して眞に日本精神に徹した獨往の道に進んでいただきたいもので御座います。然らざれば、思ひがけぬ災ひ無實の罪に犠牲を拂ふ如きことありて全く權威失墜の事態を生ずる憂ひがあります。

尤も、その見識なるものが、官僚式の獨りよがり（自我）であつてはなりません。上長や具眼者の意見をよく叩いた上で、大いに自信ある所を發揮していただきたいので御座います。この點は特に霞ヶ關





これを要するに、國家としても國民としても模範的な思想行爲をする事を信条とすべき年で、斯くすれば、期せずして幸福となり、利益を受ける兆があります。

昔から、惑星の重なる年には天變地異があると傳へられ、キリスト降誕の年は六ツの惑星が重なつたと云はれて居りますが、昭和十五年は丁度二月から三月にかけて金星地球火星木星土星の五つが一直線に重なり並ぶのであります。「かやうな現象は數百年に一度あるかないかといふ非常に珍らしいことです。」と東京天文臺の神田技師も語つて居りますが、五つの惑星が一行にならび、太陽にしたがふといふのは、神すめらぎ會の唱へるムスピ（六統）即ち諸教の統一、人類指導原理確立の前兆であつて、これは再臨の豫言者がいよ／＼世に其名を知られる（巽）兆であり、豫言者は身まかるとも重大な役を果すことゝなりませう。

時あたかも六白乾宮再生年。深甚微妙の神意を藏するのであります。表面の現象だけを見究めて、科學のメスで解剖したなどと思つて居るサイエンスマンの皮相淺慮——藪鼠みの見解のみを以て眞理と早俄點してはなりません。

尙、五つの惑星が並ぶのは地上風害をも併せて暗示しますから、豫じめこれにそなへると共に、國民の愚念と赤誠以て神風を祈るべきであります。

辰年は、丑、戌、未年と共に土性の年で世に一大變化の起ることがあり、明治卅七年（辰）の如きも日露戰爭が起つたのでございますが、本年は事變も一段落して内外更始一新の氣みなぎり、物事テキハキと行はれること辰年生れの人の性格と同様、因循姑息の風が飽かれ、即斷即決の氣運に進むことでありませう。

たゞ、短氣と無益な争ひと性念と剛情を慎しんで、小異を棄て寛大に他者と和合して進めば、後半年には諸事意の如く調ふべく、天災に對しては適宜應念の處置をとり、人心を清める工夫を要します。

物價は大高低があり、意外に躍出する兆。買ひ難い時に買ふ方針が勝。月々の運氣動向を左にかゝけて置きます。

### 昭和十五年月々の動き

〔十二月〕十四年颯風一過の象。公私共、甘く出れば馬鹿にされる意あり。信望を得ずとも積極的に剛強に、國家的觀念を以て進むに利あり。西方は暗剣殺。二十日頃、政界の變に注意。

〔一月〕 物事改まりて吉兆あり。天下の重職、國家の大任に當る象。心身潔白、行動公明なるを要す、中間の人は却つて障害をなすゆえ、人を恃まず誠ある者が並行し、上下互に相助けて進むに吉。一石三鳥を得る如きことあり。

〔二月〕 親切、丁寧に勉勵すれば祝福を受く、發奮すべき月、自我は破れ、天意の通る月

〔三月〕 精神を堅固にして一時の困難を忍べば、遂に幸運を開く意あり。遭難あるとも後に志を得る兆

〔四月〕 力に餘る事をなし、進まんとして、進み得ざる月。大過なきを幸ひとして、善行につとめ、自他に迷惑を及ぼさぬ工夫が肝要。

〔五月〕 溫和、忍耐をモットオとし、争はず他の助力を乞うて難境を脱する心がけ肝要。天候定らず風強き地多し。

〔六月〕 巧言に欺かれて妄進せぬやう、中行せば吉。世の悪を除く心がけを要す。

〔七月〕 思はぬ難を生ずる兆。自然に任せて作爲を排し、努力によつて恢復すべし。七、八、九、十月風水の難に注意を要す。

〔八月〕 小事に拘泥せず、自己國內を充實して努力せば他日志望成る。妄りに他にもとめる時は、志をさへぎられ、孤立に陥ることあり。

〔九月〕 水難注意。自重謹慎すべき月。

〔十月〕 高慢、自尊から災禍を蒙りやすし。苛酷より忠誠の士を失ふか、罷業、失火等の憂ひあり。心のみ忙しく事成りがたし。高士の助力を得て進めば吉。

〔十一月〕 ゴタ／＼ある月。是と信じた事が非に向いてゐることあり。貴上の人に心痛をかける如き事あり。野望を起さず除々に方向轉換をはかれば安泰を得。

〔十二月〕 女性の聲にきくべき月。艱難辛苦が次第に消散せんとする兆あり。但し、あせつて急進するは凶。用意周到にせば天佑を受く。

**なぜ物價は高くなるか** 政府が低物價政策をとつてゐる筈なのに、何らして諸物價が高くなるのでせうか、それは、多くの事業家に國家的公益觀念がなく、自家の儲けのみに終始して居るからであります。

營利一片の事業家は、低物價政策では利潤が低下するため、増産を差控へたり、生産物の賣惜しみをやる。市場には物資が不足し、闇取引が横行する。政府も仕方なしに一歩々々高物價に屈従するといふ有様なので御座います。そこで、それが解決の道は強力内閣の出現によつて、金融の國家管理を始め、財界、産業界の上層部に強力な統制を加へ、萬一これを忌避し、或は妨害攪亂する者に對しては非國民の名に於て徹底的弾壓を加へるの一途あるのみで御座います。

ユダヤ的自由經濟力に遠慮し、その既得權益を尊重しながら行はんとする中途半端な遣り方では大混亂あるのみであります。

397  
160

キヤラリー  
張町交叉點より松坂屋の方へ七軒目



名代  
おしるこ  
あんみつ

昭和十四年十二月十四日印  
昭和十四年十二月十七日發

行 刷

有所權版

昭和十五年運勢讀本 定價卅五錢 (送料三錢)

著作兼 發行者 東京市澁谷區羽澤町九八 榎原瑞月

印刷者 東京市小石川區指ヶ谷町一四六 大森清一

發行所 東京市澁谷區羽澤町四十三番地

森玉兔莊

電話青山六六七三番

榎原運命學研講所

(東京市澁谷區羽澤町九十八番地)  
振替東京 參壹〇貳番

神皇學會中央部

(東京市澁谷區羽澤町九十八番地)  
振替東京 貳八六八六番

◇市電青山高樹町下車・赤十字病院通り交番先・久瀨宮邸正門前坂下  
◇省線澁谷又はエビス下車・赤十字バスにて女學館前交番氣付

(發賣元鐵道弘濟會新聞部・鐵道保養會・啓德社)

(本製所本製村野・田神)

終